

Hokkaido University News

北大時報

令和2年

10

No. 799 October 2020

総長就任挨拶

役員新体制紹介

北海道大学広域複合災害研究センターと国土交通省北海道開発局が
連携協力に関する協定を締結

低温科学研究所が新潟大学災害・復興科学研究所と連携協定を締結

「光」は「北」から
「北」から「世界」へ

第20代
北海道大学総長

寶金 清博





総長就任挨拶

1 総長就任挨拶 役員新体制紹介

全学ニュース

- 10 ホームカミングデー2020年の中止及び配布物のお知らせ
- 11 北大フロンティア基金
- 13 「国民との科学・技術対話」推進に関する研究支援事業に、15名の研究者が参加
- 14 インフォメーションセンター エルムの森が装い新たに再開館
- 14 インフォメーションセンター内「カフェdeごはん」の内覧会を開催
- 15 令和2年度インターンシップを実施
- 16 学生の緊急時の対応に係る研修会をオンライン会議システムで実施
- 17 令和2年度北海道大学入試説明会をオンラインにて実施
- 17 鮮度保持技術の活用による歩留まり向上を目指すフードロス削減コンソーシアムを設立

部局ニュース

- 18 北海道大学広域複合災害研究センターと国土交通省北海道開発局とが連携協力に関する協定を締結
- 19 低温科学研究所が新潟大学災害・復興科学研究所と連携協定を締結
- 20 バランスドオーシャン事業による『LASBOS Moodle』の一般公開

- 21 フードバンク道南協議会と「食品の譲渡等に係る合意書」を締結
- 22 動物慰霊式を挙行
- 23 北方生物圏フィールド科学センター苫小牧研究林で業務体験セミナーを開催
- 24 国際食資源学院でオンラインによる大学院入試を実施
- 25 イナ・レーベル駐日ドイツ連邦共和国特命全権大使が来学
- 26 在学・在職関係資料（1960～2000年代）を大学文書館で受贈

博士学位記授与 27

諸会議の開催状況 36

学内規定 37

表敬訪問 38

人事 39

- 41 新任部局長等紹介
- 42 新任教授紹介

訃報

- 44 名誉教授 菊池 九二三 氏
- 44 名誉教授 曾野 和明 氏



インフォメーションセンター エルムの森がリニューアルオープン



令和2年度北海道大学インターンシップを実施



フードロス削減コンソーシアムを設立



イナ・レーベル駐日ドイツ連邦共和国特命全権大使が来学

表紙：総長就任挨拶（関連記事1頁に掲載）

裏表紙：キャンパス風景⑦ 正門付近のエゾリス（北8条西5丁目）

「光」は「北」から 「北」から「世界」へ

第20代総長 寶金 清博



令和2年10月1日、萩生田光一文部科学大臣からの任命を受け、第20代北海道大学総長を拝命いたしました。

本学は、前総長の解任問題により、約2年間、リーダー不在の時期を経験しました。この間、本学の教職員、学生の皆さんの努力により、国立大学法人としての基本的な責務を果たすことはできました。しかし、総長不在により北海道大学本来の能力を十分に生かすことができず、私自身も、一教員として、苦しい時期を過ごしてきました。

今回、2年のブランクを経て、新総長に就任することに対して、言葉で言い尽くせない重圧を感じております。また選考から就任までの準備期間も僅か1か月に満たない短いものでした。しかし、本学の「再生」と「発展」を果たすためには、一刻の猶予もあつてはならないと覚悟し、この日を迎えました。

大学学長を引き受けるに当たっては、誰もが並々ならぬ決意をされると思います。私も、これまで、教授職、大学病院長職など、重責を拝命して参りました。しかし、今回は、まさに「全身全霊」を尽くさなければ、この苦境にある北海道大学のリーダーは務まらないと固く肝に銘じております。

学長・総長には、それぞれの個性があります。ゴールは同じでも、その手法にはその人が受けてきた教育と経歴が反映されます。まもなく創立150年を迎える北海道大学の歴代20代の総長で、臨床医（外科医）の総長は私が初めてとなります。



私には40年以上に及ぶ脳神経外科医としての貴重な経歴があります。長年、手術室で外科医として、困難な手術を執刀してきました。患者さんの回復に安堵する夜があり、あるいは、予期せぬ結果に悔恨の痛みが癒えない日々も経験しています。また、研究者としては、幹細胞を用いた再生医療の実用化に関わってきました。

その中で学んだ最も重要な教訓は、治療者は何よりも患者の自然な「再生力」を最大化にすべきということです。そのためには、大きな侵襲を伴う外科治療や、新しい基礎研究から発展した薬物治療・再生治療が、どうしても必要です。

その「再生」から「発展」に向かう治癒力を本学は十分に持っており、困難な治療に耐え、大きな発展を迎えることができる高いポテンシャルを持っています。そして、私自身が、治療者であると同時に患者自身でもあります。教職員・学生と治療の辛さも共有し、その先にある「発展」の喜びを共に分かち合いたいと切望しています。

問題はまさに山積しています。しかし、全ては、全教職員と学生の皆さんの協力があれば、必ず、解決できるものであると確信しています。逆に、皆さんの力がなければ、どんな些細な問題も乗り越えることは出来ません。加えて、地域社会、行政、企業等、関係する多くの方々からのご支援があつてこそ、本学の円滑な運営が可能となります。ご協力を心よりお願い申し上げます。

今後、私の任期は、5年余りですが、「再生」を果たし「発展」に向かうには十分な時間です。この期間、以下の言葉を皆様と共有できればと思っております。

「光」は「北」から
「北」から「世界」へ

札幌農学校初代教頭であったウィリアム・スミス・クラーク博士が、私達に残した高邁なる大志「Lofty ambition」の精神は、今も、そして、今後も、本学の魂の言葉です。この「北の地」から「知の光」を、「世界」に発信することが、クラーク博士の言われた高邁なる大志であると理解しています。

総長就任挨拶

私は、教職員・学生、社会と共に、北から光を世界に発信すべく、先頭に立つ所存です。

本来、総長就任挨拶では、具体的な施策に関しても言及すべきと思います。しかし、短い準備期間でのスタートでもあり、今後、総長メッセージとして、定期的に「提言」をお伝えしていきます。是非、ご期待下さい。



略歴

- 昭和54年3月 北海道大学医学部卒業
- 昭和61年11月 } 米国カリフォルニア大学デービス校客員研究員
- 平成元年1月 }
- 平成2年7月 北海道大学医学部附属病院助手
- 平成3年3月 博士(医学)(北海道大学)
- 平成3年10月 柏葉脳神経外科病院医師
- 平成4年6月 北海道大学医学部助手
- 平成4年6月 北海道大学医学部附属病院講師
- 平成8年11月 } アメリカ合衆国スタンフォード大学・
- 英国王立神経研究所文部省在外研究員
- 平成12年11月 北海道大学大学院医学研究科助教授
- 平成13年11月 札幌医科大学医学部教授
- 平成22年3月 北海道大学大学院医学研究科教授
- 平成22年9月 } 北海道大学病院副病院長
- 平成25年3月 }
- 平成25年4月 北海道大学病院教授
- 平成25年4月 } 北海道大学副理事
- 平成29年3月 }
- 平成25年4月 } 北海道大学病院長
- 平成31年3月 }
- 平成29年4月 } 北海道大学副学長
- 平成31年3月 }
- 平成31年4月 社会医療法人社団カレスサッポロ時計台記念病院長
- 平成31年4月 北海道大学病院客員教授
- 令和元年9月 柏葉脳神経外科病院参与
- 令和元年9月 北海道大学大学院保健科学研究院特任教授



役員新体制紹介

令和2年10月1日現在



理事・副学長に

やまぐち じゆんじ
山口 淳二 氏

山口淳二教授は、令和2年10月1日付で理事・副学長に発令されました。

任期は、令和4年3月31日までです。

担当

総括、プロボスト、教育、学生支援、入試、人材育成、スタートアップ（産学連携）、中期目標・中期計画、教員人事制度、障害者差別解消、内部監査

兼務する職

教育改革室長、人材育成本部長、高等教育推進機構長、アドミッションセンター長

略歴

生年月日 昭和31年6月23日
昭和56年3月 埼玉大学理学部卒業
昭和58年3月 名古屋大学大学院農学研究科博士課程（前期）修了
昭和61年3月 名古屋大学大学院農学研究科博士課程（後期）修了
昭和61年3月 農学博士（名古屋大学）
昭和60年10月 日本学術振興会特別研究員
昭和61年11月 日本学術振興会海外特別研究員
昭和62年11月 名古屋大学農学部助手
平成5年4月 名古屋大学生物分子応答研究センター助手
平成7年2月 名古屋大学生物分子応答研究センター助教授
平成13年4月 北海道大学大学院理学研究科教授
平成15年4月 } 科学技術振興調整費研究領域主管（非常勤）
平成21年5月 }
平成18年4月 北海道大学大学院先端生命科学研究院教授
平成22年4月 北海道大学大学院理学研究院教授
平成22年10月 } 北海道大学高等教育推進機構副機構長
平成25年3月 }
平成23年4月 } 役員補佐
平成26年3月 }
平成26年4月～北海道大学副学長
平成26年4月 } 北海道大学大学院生命科学院長
平成29年3月 }
平成31年4月 } 北海道大学大学院理学研究院附属ゲノムダイナミクス研究センター長
令和2年9月 }



理事・副学長に

よこた あつし
横田 篤 氏

横田篤教授は、令和2年10月1日付で理事・副学長に発令されました。

任期は、令和4年3月31日までです。

担当

国際全般（国際連携研究教育局（GI-CoRE）関連統括、国際競争力強化・大学連携、国際交流、海外オフィス）、SDGs

兼務する職

国際連携機構長、サステイナブルキャンパスマネジメント本部長

略歴

生年月日 昭和32年2月22日
昭和54年3月 北海道大学農学部農芸化学科卒業
昭和56年3月 北海道大学大学院農学研究科農芸化学専攻修士課程修了
昭和59年3月 北海道大学大学院農学研究科農芸化学専攻博士後期課程修了
昭和59年3月 農学博士（北海道大学）
昭和59年4月 味の素株式会社中央研究所
平成元年3月 北海道大学農学部助手
平成3年4月 北海道大学農学部講師
平成4年4月 北海道大学農学部助教授
平成11年4月 北海道大学大学院農学研究科助教授
平成12年8月 北海道大学大学院農学研究科教授
平成18年4月 北海道大学大学院農学研究院教授
平成24年4月 } 役員補佐
平成25年3月 }
平成25年4月 } 北海道大学大学院農学研究院副研究院長、教育研究評議会評議員
平成27年3月 }
平成27年4月 } 北海道大学大学院農学研究院長・農学院長・農学部長
平成31年3月 }



理事・副学長に

よしみ ひろし
吉見 宏 氏

吉見 宏教授は、令和2年10月1日付で理事・副学長に発令されました。

任期は、令和4年3月31日までです。

担 当

予算・決算，経理の適正化，コンプライアンス，北海道大学憲章策定，広報，情報公開，ハラスメント

兼務する職

広報室長

略 歴

生 年 月 日	昭和36年 8月 1日
昭和60年 3月	九州大学経済学部卒業
昭和62年 3月	九州大学大学院経済学研究科修士課程修了
平成 2年 3月	九州大学大学院経済学研究科博士後期課程単位修得退学
平成 2年 4月	} 日本学術振興会特別研究員
平成 3年 2月	
平成 3年 2月	北海道大学経済学部講師
平成 5年 2月	北海道大学経済学部助教授
平成12年 4月	北海道大学大学院経済学研究科助教授
平成16年 6月	北海道大学大学院経済学研究科教授
平成18年 3月	博士（経営学）（北海道大学）
平成21年 4月	} 北海道大学大学院経済学研究科副研究科長，教育研究評議会評議員
平成24年 3月	
平成24年 4月	} 北海道大学大学院経済学研究科長・経済学部長
平成28年 3月	
平成28年 4月	} 北海道大学副学長
平成29年 3月	
平成29年 4月	北海道大学大学院経済学研究院教授



理事・副学長に

ますだ たかお
増田 隆夫 氏

増田隆夫教授は、令和2年10月1日付で理事・副学長に発令されました。

任期は、令和4年3月31日までです。

担 当

研究，データ戦略，情報推進（情報セキュリティ，個人情報含む），産学官連携，知的財産，研究倫理

兼務する職

研究戦略室長，創成研究機構長，産学・地域協働推進機構長

略 歴

生 年 月 日	昭和32年 1月11日
昭和54年 3月	京都大学工学部卒業
昭和56年 3月	京都大学大学院工学研究科修士課程修了
昭和57年10月	京都大学工学部助手
昭和63年 7月	工学博士（京都大学）
平成元年 4月	京都大学工学部講師
平成 6年 2月	京都大学工学部助教授
平成 8年 4月	京都大学大学院工学研究科助教授
平成13年 4月	北海道大学大学院工学研究科教授
平成22年 4月	北海道大学大学院工学研究院教授
平成26年 4月	} 北海道大学大学院工学研究院副研究科長
平成29年 3月	
平成29年 4月	} 北海道大学大学院工学研究院長・工学部長
平成31年 3月	
令和 2年 4月	北海道大学大学院工学研究院特任教授



理事・副学長に

やまもと ふみひこ
山本 文彦 氏

山本文彦教授は、令和2年10月1日付で理事・副学長に発令されました。

任期は、令和4年3月31日までです。

担当

教育・研究組織改革（大学院改革含む）、全学運用教員、業務改善・働き方改革（IT化を含む）、評価（教員人事評価を含む）、図書館・博物館

兼務する職

評価室長，附属図書館長，大学文書館長，技術支援本部長

略歴

生年月日 昭和36年9月10日
 昭和60年3月 東北大学文学部卒業
 昭和62年3月 東北大学大学院文学研究科博士課程前期修了
 平成4年3月 東北大学大学院文学研究科博士課程後期単位修得退学
 平成4年4月 北海道大学文学部助教授
 平成6年2月 博士（文学）（東北大学）
 平成12年4月 北海道大学大学院文学研究科助教授
 平成19年4月 北海道大学大学院文学研究科准教授
 平成21年4月 北海道大学大学院文学研究科教授
 平成24年4月 } 北海道大学大学院文学研究科副研究科長
 平成28年3月 }
 平成26年4月 } 北海道大学教育研究評議会評議員
 平成28年3月 }
 平成28年4月 } 北海道大学大学院文学研究科研究科長・文学部長
 平成31年3月 }
 平成31年4月 北海道大学大学院文学研究院教授
 平成31年4月 } 北海道大学大学院文学研究院長
 令和2年3月 }



理事に

すがわら のぶよし
菅原 修孝 氏

菅原修孝氏は、令和2年6月23日から理事を務め、令和2年9月30日をもって任期満了となりましたが、引き続き同氏が再任されました。

任期は、令和4年3月31日までです。

担当

資産管理・運用，外部資金，寄附，施設・環境，同窓会（業務全般），病院再開発，安全・防災

兼務する職

施設・環境計画室長，安全衛生本部長

略歴

生年月日 昭和35年6月1日
 昭和58年4月 北海道東北開発公庫
 平成11年10月 日本政策投資銀行地域企画部（北海道東北地域担当）課長
 平成13年3月 日本政策投資銀行関西支店業務課長
 平成15年3月 日本政策投資銀行情報通信部課長
 平成17年3月 日本政策投資銀行産業・技術部次長
 平成18年7月 山梨県民信用組合総合企画部長
 平成19年7月 DBJ 野村インベストメント株式会社 取締役管理部長
 平成21年6月 株式会社日本政策投資銀行新潟支店長
 平成24年7月 苫小牧埠頭株式会社参与，企画部長
 平成27年6月 苫小牧埠頭株式会社取締役総務部長
 令和元年6月 苫小牧埠頭株式会社常務取締役
 令和2年6月 北海道大学理事
 令和2年7月 北海道大学理事・事務局長



理事に

むらた よしのり
村田 善則 氏

村田善則氏は、令和2年7月29日から理事を務め、令和2年9月30日をもって任期満了となりましたが、引き続き同氏が再任されました。

担当

労務管理、リスク管理、オリンピック・パラリンピック事務統括（職員人事を含む）、行政対応

略歴

生年月日 昭和36年10月23日
 昭和60年4月 文化庁文化財保護部伝統文化課
 昭和61年4月 参議院法制局参事
 昭和63年7月 文部省高等教育局医学教育課
 昭和63年10月 文部省高等教育局医学教育課企画係長
 平成2年7月 文部省体育局体育課企画係長
 平成4年4月 長崎県教育庁文化課長
 平成6年10月 総務庁人事局参事官補佐
 平成9年1月 文部省高等教育局企画課課長補佐
 平成10年4月 金沢市教育委員会教育次長
 平成12年7月 文部省高等教育局大学課大学院振興企画官
 平成13年7月 (命) 文部科学省高等教育局大学改革官
 平成14年10月 文部科学省高等教育局大学課大学企画調整室長
 平成15年4月 文部科学省初等中等教育局企画官
 平成16年7月 文化庁文化財部記念物課長
 平成18年1月 文部科学省高等教育局学生支援課長
 平成20年7月 文部科学省高等教育局私学部私学行政課長
 平成22年7月 厚生労働省医政局医事課長
 平成23年7月 文部科学省高等教育局医学教育課長
 平成25年10月 文部科学省科学技術・学術政策局政策課長
 (命) 文部科学省科学技術・学術政策局 科学技術・学術総括官
 平成27年8月 文化庁文化財部長
 平成28年6月 文部科学省高等教育局私学部長
 平成30年10月 文化庁次長
 令和元年7月 文部科学省研究振興局長
 令和2年7月 北海道大学理事



理事に

うめはら としゆき
梅原 俊志 氏

梅原俊志氏は、令和2年7月28日から理事を務め、令和2年9月30日をもって任期満了となりましたが、引き続き同氏が再任されました。

担当

経営改革、産学連携、地域連携

略歴

生年月日 昭和32年9月3日
 昭和59年4月 日東電工株式会社
 平成11年4月 日東電工株式会社 主任研究員
 平成17年7月 日東電工株式会社 事業部本部長
 平成21年7月 日東電工株式会社 事業部長
 平成22年6月 日東電工株式会社 執行役員、事業部門長
 平成25年6月 日東電工株式会社 上席執行役員、事業部門長
 平成27年4月 日東電工株式会社 取締役、事業部門長
 平成29年4月 日東電工株式会社 取締役、CTO、全社技術部門長
 平成30年4月 日東電工株式会社 取締役、CTO、CIO、全社技術部門長
 令和元年6月 日東電工株式会社 代表取締役、CTO、全社技術部門長
 令和2年7月 北海道大学理事



副学長に

あきた ひろし
秋田 弘俊 氏

秋田弘俊教授は、令和2年4月1日から副学長を務め、令和2年9月30日をもって任期満了となりましたが、引き続き同氏が再任されました。

担 当

病院経営

略 歴

昭和56年3月 北海道大学医学部卒業
 昭和62年3月 北海道大学大学院医学研究科博士課程修了
 昭和62年3月 医学博士（北海道大学）
 昭和62年10月 } 米国国立癌研究所 Fogarty Visiting Fellow
 平成2年3月 }
 平成2年4月 北海道大学医学部附属病院助手
 平成9年10月 北海道大学医学部附属病院講師
 平成13年8月 北海道大学大学院医学研究科教授
 平成28年4月 北海道大学病院副院長
 平成29年4月 北海道大学大学院医学研究院教授
 平成31年4月 北海道大学病院長・北海道大学副学長



副学長に

ゆはら かずより
弼 和順 氏

弼 和順教授は、令和2年10月1日付けで副学長に発令されました。

任期は、令和4年3月31日までです。

担 当

新渡戸カレッジ，同窓会（業務補佐）

略 歴

生 年 月 日 昭和34年8月2日
 昭和58年3月 北海道大学文学部卒業
 昭和60年3月 北海道大学大学院文学研究科修士課程修了
 昭和63年3月 北海道大学大学院文学研究科博士後期課程単位修得退学
 昭和63年4月 名古屋大学文学部助手
 平成7年4月 北海道大学文学部助教授
 平成12年4月 北海道大学大学院文学研究科助教授
 平成17年9月 北海道大学大学院文学研究科教授
 平成20年4月 } 北海道大学大学院文学研究科副研究科長
 平成22年3月 }
 平成21年4月 } 北海道大学教育研究評議会評議員
 平成22年3月 }
 平成22年4月 } 北海道大学大学院文学研究科研究科長
 平成26年3月 }
 平成27年4月 } 総長補佐
 平成29年3月 }
 平成27年4月 } 北海道大学高等教育推進機構副機構長
 平成29年3月 }
 平成31年4月 北海道大学大学院文学研究院教授



副学長に

いしもり こういちろう
石森 浩一郎 氏

石森浩一郎教授は、令和2年10月1日付けで副学長に発令されました。

任期は、令和4年3月31日までです。

担当

研究力強化、WPI

略歴

生年月日 昭和36年5月12日
 昭和59年3月 京都大学工学部卒業
 昭和61年3月 京都大学大学院工学研究科修士課程修了
 平成元年3月 京都大学大学院工学研究科博士後期課程修了
 平成元年3月 工学博士（京都大学）
 平成元年4月 京都大学工学部助手
 平成7年10月 京都大学工学部助教授
 平成8年4月 京都大学大学院工学研究科助教授
 平成17年4月 北海道大学大学院理学研究科教授
 平成18年4月 北海道大学大学院理学研究院教授
 平成25年4月 } 北海道大学役員補佐
 平成26年3月 }
 平成25年10月 } 北海道大学創成研究機構副機構長
 平成26年3月 }
 平成26年4月 } 北海道大学大学院理学研究院副研究院長、教育研究評議会評議員
 平成27年3月 }
 平成27年4月 } 北海道大学大学院理学研究院院長・理学部長
 平成31年3月 }
 令和2年2月 北海道大学創成研究機構化学反応創成研究拠点・大学院理学研究院教授
 令和2年2月 北海道大学創成研究機構化学反応創成研究拠点エグゼクティブディレクター



副学長に

はせやま みき
長谷山 美紀 氏

長谷山美紀教授は、令和2年10月1日付けで副学長に発令されました。

任期は、令和4年3月31日までです。

担当

IR、男女共同参画・ダイバーシティ、行政連携

略歴

生年月日 昭和38年7月18日
 昭和61年3月 北海道大学工学部卒業
 昭和63年3月 北海道大学大学院工学研究科修士課程修了
 平成元年8月 北海道大学応用電気研究所助手
 平成4年4月 北海道大学電子科学研究所助手
 平成5年9月 博士（工学）（北海道大学）
 平成6年1月 北海道大学工学部助教授
 平成9年4月 北海道大学大学院工学研究科助教授
 平成16年4月 北海道大学大学院情報科学研究科助教授
 平成18年4月 北海道大学大学院情報科学研究科教授
 平成25年4月 } 北海道大学役員補佐
 平成26年3月 }
 平成26年4月 } 北海道大学総長補佐
 令和2年3月 }
 平成28年10月 北海道大学国際連携研究教育局・大学院情報科学研究科教授
 平成29年4月 } 北海道大学総合IR室副室長
 令和2年3月 }
 平成29年7月 } 北海道大学総合IR室経営戦略部門長
 令和2年3月 }
 平成29年7月～北海道大学数理・データサイエンス教育研究センター長
 平成30年4月 } 北海道大学大学院情報科学研究科副研究科長
 平成31年3月 }
 平成31年4月 北海道大学国際連携研究教育局・大学院情報科学研究科教授
 平成31年4月 } 北海道大学大学院情報科学研究科副研究院長
 令和2年3月 }
 令和2年4月～北海道大学大学院情報科学研究科院長・情報科学院長



監事に

たかほし ともえ
高橋 朋江 氏

高橋朋江監事は、令和2年9月1日から監事を務めています。

任期は、令和6年8月31日までです。

略 歴

生年月日 昭和36年3月23日
 昭和59年3月 北海道大学理学部卒業
 昭和60年4月 北海道庁
 平成25年4月 同 総務部法人局大学法人室参事
 (北海道公立大学法人札幌医科大学(参事)派遣)
 平成27年6月 同 総合政策部政策局参事
 平成29年4月 同 石狩振興局副局长
 令和元年6月 同 総務部参与
 (北海道公立大学法人札幌医科大学(事務局長)派遣)
 令和2年9月 北海道大学監事



監事に

いしかわ のぶゆき
石川 信行 氏

石川信行監事は、令和2年9月1日から監事を務めています。

任期は、令和6年8月31日までです。

略 歴

生年月日 昭和43年3月26日
 平成3年3月 北海道大学教育学部卒業
 平成5年10月 朝日監査法人(現あずさ監査法人)札幌事務所
 平成9年8月 石川公認会計士事務所代表
 令和2年9月 北海道大学監事

■全学ニュース

ホームカミングデー2020中止に伴う資料送付について

本年9月26日（土）に開催を予定していた「ホームカミングデー2020」については、新型コロナウイルスの感染が拡大している状況を鑑み開催中止となりましたが、ホームカミングデー2020のウェブサイト上で本学の関係者へ向

けて大学の近況を纏めた資料やオリジナルトートバッグの送付について募集を行いました。募集した結果、約1,200名の方に応募をいただき、10月中旬に皆様の元へ発送しました。

次回のホームカミングデーは、令和

3年9月24日（金）～26日（日）の3日間の開催を予定しています。

（総務企画部広報課）



資料及びトートバッグ

北大フロンティア基金

北大フロンティア基金は、本学の創基130年を機に、教育研究の一層の充実を図り、これまで以上に自主性・自立性を発揮して大学としての使命を果たすため、平成18年10月に創設しました。

奨学金制度の充実や留学生への支援などの学生支援を中心に、研究支援、学部等支援など様々な事業を行っており、期限を付さない、息の長い募金活動をする事としています。

皆様には基金の趣旨にご賛同いただき、ご協力をお願いします。

北大フロンティア基金情報
基金累計額（9月30日現在）

28,169件 5,253,674,402円

9月のご寄附状況

法人等7社、個人304名の方々から11,068,047円のご寄附を賜りました。

そのご厚志に対しまして感謝を申し上げますとともに、同意をいただいているの方々のご芳名、銘板の掲示について掲載させていただきます。（五十音別・敬称略）

寄附者ご芳名（法人等）

株式会社エンデバー、月島食品工業株式会社、ニューオータニイン札幌、東札幌メンタルクリニック、FIND CAREERS、医療法人社団北萌会

寄附者ご芳名（個人）

合川 正幸	赤澤 茂	朝倉 仁樹	朝田 弘子	浅田 正典	浅見 真生	足立くにこ	阿部 幹雄
飯島 奈美	五十嵐美香	石井 哲夫	石川 信行	石関 正浩	一條 昌幸	稲葉恵一郎	井上 弘子
猪股 晶子	井原 博	今井 英美	今井 必生	入澤 秀次	岩崎 克巳	岩崎 正則	植木 貴浩
上村亜侑美	卜部 秀彦	上野 志保	縁記 和也	大澤 恵利	太田 裕之	大瀧 千佳	大谷 和大
大西 俊介	大野 耕一	大場 靖子	大原 正範	岡 潤一	岡 万里	奥田 英信	長田 憲子
小田原一史	音羽愛名碧	小柳 毅	加藤 徹	金川 眞行	金丸 孝	川上 秀明	川上 善行
河本 充司	川本 泰之	菊地 園江	菊池 信和	菊地 英樹	北村 一夫	北村 貴美	木梨 尚美
木林 町子	木村 範明	木村 幸文	小泉 径子	小向 志保	斎藤 和敏	齊藤 晋	齋藤 哲治
斉藤 久	齋藤真姫子	坂井 洋一	坂本 大介	桜田 厚子	佐藤 聡秋	佐藤 恒久	佐藤 初美
佐藤富士夫	澤井 徹郎	三升畑元基	志済 聡子	篠田 佳寿	芝田 行徳	鳥田 元生	白羽 枝里
杉江 和男	杉野 由季	鈴木 貴之	関崎 勉	関谷 翔	瀬名波栄潤	多賀 未保	高橋 俊
瀧本 真利	詫間 滋	竹内 学	竹内 義治	武重宏呂修	竹本 淳一	立野 正敏	田村 岳史
千葉 悦子	土家 琢磨	土屋 裕	椿 茂	寺井伊都子	寺澤 睦	戸田 純子	豊田 威信
中井 光野	長澤 稔	中澤 洋子	中島 順二	中塚 英俊	中西 一彰	中町 昭道	長本 克義
中本 壽宏	長屋 忍	難波 三男	西 康彦	西田 実弘	西村美知子	新田 幸絵	沼田 哲男
橋本 美穂	長谷 由理	花田 秀一	平田 直毅	平山 智史	福士 幸治	福永 悟郎	福原 孝弘
藤澤 俊明	藤田 萌	藤田 陽一	藤田 律子	藤原 睦紀	古屋 和彦	寶金 清博	前田 克美
前田 博	前田 政範	牧野 匡純	松田 健一	松原 謙一	三ヶ尻嘉範	宮家 康浩	宮田 信幸
村尾 政樹	村上 泰一	村上 幸夫	村武 直樹	八重樫幸一	山内 清久	山岸 慶昭	山崎 恒裕
山城 晋司	山田 恭子	山本 睦生	弮 和順	横井 成尚	横山あゆみ	横山 考	吉田 広志
吉田美由紀	渡邊 諭	渡邊 潤子	渡邊 宏				

銘板の掲示（20万円以上のご寄附）

（法 人）

株式会社エンデバー，東札幌メンタルクリニック，医療法人社団北萌会

（個 人）

赤澤 茂，石川 信行，石関 正浩，大西 俊介，佐藤富士夫，島田 元生，椿 茂，中島 順二，中町 昭道，
平山 智史，北村 貴美

ご寄附のお申し込み方法

北大フロンティア基金ホームページの「教職員の方によるご寄附について」にアクセスして下さい。

<https://www.hokudai.ac.jp/fund/howto-staff.html>

①給与からの引き落とし

ホームページから「北大フロンティア基金申込書（兼・給与口座からの引落依頼書）」をダウンロードし，ご記入の上，基金事務室に提出してください。

②郵便局または銀行への振り込み

基金事務室にご連絡ください。払込取扱票をお送りします。

③現金でのご寄附

寄附申込書に現金を添えて，基金事務室にご持参ください。

申込書は，ホームページから「北大フロンティア基金申込書（教職員現金用）」をダウンロードしてご記入いただくか，基金事務室にもご用意していますので，基金事務室にお越しただいてからご記入いただくことも可能です。

④クレジットカード決済・コンビニ決済でのご寄附

北大フロンティア基金ホームページ

(<https://www.hokudai.ac.jp/cgi-bin/fund/bin/xRegist.cgi>) の寄附申し込みフォームから申込をお願いします。

北大フロンティア基金に関する問い合わせ 基金事務室（事務局・学内電話 2017）

（総務企画部広報課）

「国民との科学・技術対話」推進に関する研究支援事業に、15名の研究者が参加

平成24年度から実施している、「国民との科学・技術対話」推進に関する研究支援事業、通称“Academic Fantasia（アカデミックファンタジスタ）”では、北海道新聞社の協力のもと、高校生を対象とした出張講義などを行っています。今年度は、ここに紹介する15名の研究者たちが、最前線の知を解説します。

10月から順次講義を行っていく予定です。

■ Facebookで講義レポートを随時更新していきます。ぜひご覧ください。

@Hokkaido.univ.taiwa

<https://www.facebook.com/Hokkaidouniv.taiwa>

(総務企画部広報課)



北海道新聞に掲載されたキックオフ広告（令和2年9月23日 朝刊）

【順不同】

- 相馬 雅代 准教授（理学研究院）「鳥類から考えるコミュニケーションの進化」
- 米澤 徹 教授（工学研究院）「物質の性質を本当に制御するものは何か？」
- 清水 伸一 教授（医学研究院）「動くがんを狙い撃つ！精密放射線治療」
- 工藤 與亮 教授（医学研究院）「画像診断で認知症の早期発見を目指す」
- 平田 健司 准教授（医学研究院）「PETとAIを使ってがんの診断に挑む」
- 竹内 康浩 教授（文学研究院）「文学を平べったく味わう」
- 川堀 真人 特任准教授（北海道大学病院）「再生医療で脳を治す」
- 川本 泰之 助教（北海道大学病院 腫瘍センター）「がんと薬物療法、最新の治療開発」
- 三澤 弘明 特任教授（電子科学研究所）「夢のエネルギー人工合成の実現に向けて」
- 長山 雅晴 教授（電子科学研究所附属社会創造数学研究センター）「様々な現象を数式にしてみよう！」
- 青沼 仁志 准教授（電子科学研究所附属社会創造数学研究センター）「昆虫が超高速の運動を生み出すカラクリ」
- 加藤 博文 教授（アイヌ・先住民研究センター）「アイヌ民族の歴史から世界を見る」
- 小林 澄貴 特任講師（環境健康科学研究教育センター）「ヒトの身近な環境は健康に関係するのか？」
- 池田 文人 教授（高等教育推進機構）「AIは何を問えるか？」
- 池田 貴子 特任助教（高等教育推進機構）「殺さなくても、防げます」

インフォメーションセンター エルムの森がリニューアルオープン

インフォメーションセンター エルムの森においては、館内の改修工事に伴い、令和2年7月より一時閉館していましたが、10月1日（木）に再開館しました。

（総務企画部広報課）

インフォメーションセンター エルムの森が装い新たに再開館

館内のレイアウトが従前から大きく変わり、入り口付近にインフォメーションエリアが設けられたことで、ご来館の方がより気軽に尋ねやすい雰囲気となりました。また、各学部案内等の資料も集約化したことで、目的の資料が見つけやすい、来館者に寄り添った配置になっています。

あわせて、惜しまれつつも本年6月末をもって閉店したエルムの森ショップ・カフェのかわりに「カフェdeごはん」

及びオリジナルショップがオープンしました。

「カフェdeごはん」では、「北海道大学の美味しい。開店します」をキャッチコピーに、平日は7:45~22:30まで営業し、モーニング、ランチ、アフターヌーン、ディナーと時間帯に応じた豊富なメニューをご用意しています。

また、カフェエリアにカウンター席が出来たことで、お一人でのご利用もしやすくなりました。インフォメー

ションセンターの中庭を眺めながら、ゆったりとお過ごしくください。

なお、職員証・学生証をご提示いただくと、物販を除く飲食物が全て表示価格（税込）より10%オフとなります。装いも新たに学内外の皆様の越しをお待ちしております。

「カフェdeごはん」へのお問い合わせ・ご予約は、店舗（011-717-2944）までお願いします。



インフォメーションエリア



オリジナルグッズエリア



カフェdeごはんエリア
カウンターには店舗で焼き上げたクロワッサンが並びます

各エリアによって開館・営業時間が異なりますのでご注意ください。
 ・インフォメーションエリア：平日・土日祝日ともに8:30~17:00
 ・カフェdeごはん及びオリジナルショップ：平日7:45~22:30（土日祝日は8:30~20:30）
 なお、いずれも年末年始を除く年中無休で開館・営業しております。



新設されたカウンター席から臨む中庭と
テイクアウト用コーヒー

インフォメーションセンター内「カフェdeごはん」の内覧会を開催

インフォメーションセンター内に新たにオープンする「カフェdeごはん」では、10月1日（木）の開店に先立ち、9月28日（月）に学内者向けの内覧会を開催しました。

内覧会では、同店舗が運営するオリジナルショップのご案内のほか、「カフェdeごはん」で提供されるメニューの試食も行われました。

試食メニューの中でも、本学初とな

る、北大農場の牛から採れた「北大牛乳」を使用したソフトクリームは特に



内覧会の様子

好評で、ご参加いただいた方々は舌鼓を打っていました。



北大牛乳を使用したソフトクリームを堪能する参加者

令和2年度北海道大学インターンシップを実施

本学学生を対象としたインターンシップを9月7日（月）～9月11日（金）の5日間実施しました。

本インターンシップは、特に近年、社会的にインターンシップへの参加希望者が増加していること、本学卒業生に係る進路状況においても就職先として本学が高い順位を示していること等を踏まえ、学生に就業体験の機会を与えることにより、職業意識の育成・向上に寄与し、併せて本学に対する理解を深めることを目的として実施してい

ます。

今年度は、4名の学生を受け入れました。（別表参照）

初日は実習生を対象として、インターンシップ開講式及び全体オリエンテーションを実施し、各部署担当者から「組織運営」「財務」「学務」「研究推進」「施設」「図書」「国際」の7つのテーマに基づき、本学の概要が説明され、その後は、各受入部署で就業体験を行いました。

実習生は、慣れない環境ながら指導

する職員の説明を受け、メモを取りつつ積極的に理解しようとしていました。また、職務を経験することで仕事の楽しさ、難しさを感じているようでした。

今後も就業体験を通して本学の魅力を発信し、多くの学生に就職先として本学を選択してもらえよう、取り組みを続けていきます。

（総務企画部人事課）



業務説明を聞く様子（左が実習生）



プレゼンテーションをする様子

受入部署	受入開始日-終了日 【実働日数】	実習生	
		所属	学年
総務企画部	令和2年9月7日（月）- 令和2年9月11日（金） 【5日】	文学院	修士1年
学務部		法学部	3年
附属図書館		文学部	3年
		文学部	3年

（別表）

学生の緊急時の対応に係る研修会をオンライン会議システムで実施

9月18日（金）、学生の緊急時の対応に係る研修会を開催しました。

本研修会は、本学の教職員を対象に、学生の緊急時の対応に関する実務的な仕組みの全体構造、さまざまな関連制度や手続の相互関係、学内各機関・部署や現場部局の役割と連携のあり方、具体的な手順等を説明し、教職員の皆様に緊急時の対応方法への理解及び認識を深めることを目的として開催されたものです。昨年度、学生委員会、学務部及び学生相談総合センター・保健センター・ハラスメント相談室等の専門機関等のそれぞれのレベルで、相互関係を意識しながら、従来の仕組みが大幅にアップデートされ、新規の仕組みも整備されて、学生緊急時対応に関する学内体制が刷新されたためです。本学総長補佐・法学研究科の児矢野マリ教授に講義いただき、参加者は計92名となりました。

また新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、オンライン会議システム「Webex」を利用した方法で実施しました。オンライン配信会場では消毒液とマスクの用意及び換気を行う等の感

染防止策を徹底し、開催に向けて事前にWeb会議システムの操作方法及び研修会資料をあらかじめ参加者に送付して研修会を進行しました。

研修会では、児矢野教授から最初に学生の緊急時に関する最近の傾向とそれを踏まえた対応についての留意点の説明があり、続いて対応の大前提として、「学生の教育・生活支援に関する学内体制の概念図」をもとに、学生の種類やプログラムごとの主担当部局やその役割等の説明がありました。それを受けて、問題テーマごとに3部構成の解説がありました。第1部では、「学生の緊急時対応に関する学内体制・関連する仕組・対応手順等の概要」の資料に沿って、実践的に現場で使用される「教務関係共通事務処理マニュアル」とそれに連結される学生委員会の申合せ及び学生相談総合センターと保健センターによる申合せ（学生緊急時のポストベンション（事後の危機対応）に係る全学の支援体制に関する連携対応）等の枠組と概要につき具体的な仮想事例にそった説明がありました。第2部では、詳細なフロー

チャートにそって、「学生相談総合センターの来談学生に想定される緊急時の対応」について解説がありました。第3部では、再び上記「学生の緊急時対応に関する学内体制・関連する仕組・対応手順等の概要」の資料を用いて、学生委員会の申合せを中心に「学生の犯罪被害遭遇・盗撮遭遇・カルト問題等遭遇の場合の対応」に関する説明がありました。

緊急事態または学生からの相談があった際に、どのような機関・部署・部局が、どの機関・部署・部局と連携し、どのような手順で、何に注意して対応すべきか理解を深めることができた本研修会は、日頃学生にかかわることの多い教職員の参加者にとって大変有益な研修会となりました。本研修会のビデオはオンデマンドで学内からアクセス可能なので、現場での円滑な対応に役立てていただくため、さらに多くの教職員に視聴していただきたいと、児矢野教授から発言がありました。

（学務部学生支援課）



教職員向けオンライン研修会の様子



総長補佐・法学研究科 児矢野マリ教授による説明

令和2年度北海道大学入試説明会をオンラインにて実施

7月20日（月）、高等学校等の進路指導担当教諭を主な対象とした入試説明会を開催しました。

例年は学術交流会館にて開催するところ、本年は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、事前に収録した動画をオンラインにて視聴する方法で開催した結果、291名の申し込み、346回の動画再生がありました。

説明会の動画では、長谷川晃理事・副学長（アドミッションセンター長）からの挨拶及び本学の現状について説明があった後、藤田 修アドミッション

センター副センター長より令和2年度入試結果の概要の報告があり、続いて令和3年度以降の入試の説明として、令和3年度一般選抜・総合型選抜の変更点及び、令和4年度フロンティア入試についての説明のほか、高等教育推進機構 高等教育研究部 橋村正悟郎オフィサーによる総合型選抜におけるコンピテンシー評価についての説明を行いました。

開催後のアンケートでは、「当該学年の指導に関わるすべての教員が説明会への参加の機会を得られたことは大

変良かった」、「時間内ではあるが、繰り返し再生して視聴することができて助かった」等のオンライン開催の利点が挙げられた一方、「オンラインでの説明会のため双方向になりづらかった点について課題が残る」、「土日も含め1週間程度の猶予が欲しい」等、今後オンラインで開催する際の課題が寄せられました。

（アドミッションセンター）

鮮度保持技術の活用による歩留まり向上を目指す フードロス削減コンソーシアムを設立

北海道大学、北海道科学技術総合振興センター、北海道立総合研究機構、セコマグループは、食品の生産、流通、小売等のサプライチェーンにおけるフードロス問題の解決と歩留まり向上を目指し、フードロス削減コンソーシアムを設立しました。

本コンソーシアムの設立に先立ち、本学と株式会社セコマは、COI『食と健康の達人』拠点において、本学が開発したプラチナ触媒を用いた野菜の鮮

度保持の超長期化に向けた実証実験を2019年から実施しており、保管倉庫内の野菜の歩留まりが5%向上するなどの良好な結果が得られています。

サプライチェーンにおける食品の鮮度保持の最適化は、フードロス削減や、歩留まりの向上、持続可能な生産・消費に寄与し、2015年に国連にて採択されたSDGs（Sustainable Development Goals/持続可能な開発目標）の達成のためにも重要な課題です。本コンソー

シアムでは、鮮度保持技術の実用化、普及に向けた活動を通して、SDGsに寄与する取り組みを進めていく予定です。

◆問合せ先：

北海道大学産学・地域協働推進機構
FMI推進本部フードロス削減コンソーシアム担当

no-foodloss@fmi.hokudai.ac.jp

（産学・地域協働推進機構）



左から 北海道科学技術総合振興センター 土合宏明専務理事/
株式会社セコマ 丸谷智保代表取締役会長/
北海道大学 福岡 淳教授/
北海道立総合研究機構 田中義克理事長



記者会見 質疑応答の様子
9月29日（火）北海道大学FMI国際拠点にて記者会見を行いました

■ 部局ニュース

北海道大学広域複合災害研究センターと国土交通省北海道開発局とが連携協力に関する協定を締結

広域複合災害研究センターは国土交通省北海道開発局と10月2日（金）に連携協力に関する協定を締結しました。

締結式は本学事務局で執り行われ、本センターからはセンター長の山田孝教授、副センター長の笠井美青准教授、厚井高志准教授が、北海道開発局からは倉内公嘉開発局長、米津仁司次長、岡下 淳開発調整課長が出席しました。また、締結式に先立って寶金清博総長を表敬訪問し、協定締結の経緯や内容について説明しました。

本センターは2019年4月に本学に設置された学内共同施設です。農学、工

学、理学、文学等を専門とする学内教員から構成されており、研究、教育、社会貢献（アウトリーチ）の3つを柱としています。気候変動や地殻変動が活発化する中で、今後、種々の自然災害が連鎖複合することで災害が激甚化することも想定されます。広域複合災害研究センターではその実態解明や課題を整理しつつ、減災手法を提案していくことを一つの使命としています。

減災手法の検討に際し、災害対応の実務に長けた北海道開発局との連携協力は不可欠です。本連携協定の締結は、広域複合災害・北海道開発分野に

おける研究・技術開発、人材育成の推進を目的としています。協定締結により災害時のみならず平常時から緊密な連携協力を推進していくこととなります。今後は、教育・研究上の情報交換を行うなどして防災に係る人材育成を相互に図るほか、本センターが主催する研究集会や講義、研究プロジェクト等への北海道開発局の参画、本センターからは北海道開発に係る施策・事業に対する助言、災害に関する助言を行っていく予定です。

（広域複合災害研究センター）



署名後、協定書を掲げる山田センター長（左）と倉内開発局長（右）

低温科学研究所が新潟大学災害・復興科学研究所と連携協定を締結

9月18日（金）、低温科学研究所は新潟大学災害・復興科学研究所と連携協定を締結しました。当協定は、両研究所がこれまで長年にわたり培ってきた研究協力関係を基盤として、より緊密で組織的な連携関係を構築することにより、低温科学及び災害科学分野の研究を発展させることを目的としています。

新潟大学災害・復興科学研究所で行

われた調印式において、福井 学低温科学研究所長は「災害科学分野は生活に密接した重要なテーマでもある。相互の研究開発能力及び人材を活かして総合力を発揮することにより、低温科学及び災害科学分野の研究と教育の発展に重要な役割を果たしたい。」と抱負を述べました。

また、河島克久災害・復興科学研究所長は、「当研究所では気候変動も取

り扱っており、低温科学研究所との連携を強化できるのは大変ありがたい。双方の研究所の強みを活かして緊密な連携を行うことにより発展的な研究成果が期待され、意義のある締結と考えている。」と発言されました。

今後、両研究所の研究交流がますます活発に行われることが期待されます。

（低温科学研究所）



調印後の福井所長（左）と河島所長（右）



調印式における関係者集合写真

バランスドオーシャン事業による『LASBOS Moodle』の一般公開

水産科学研究院と北方生物圏ワールド科学センターが進める「バランスドオーシャン」事業では、海洋分野のオンライン教材を集積したLASBOS Moodleを10月1日（木）に一般公開しました。バランスドオーシャン事業は、「海のトップサイエンティストの早期発掘と育成」を目指した教育プログラム（機能強化促進事業2019-2023）です。従来の対面式の講義授業や実習授業を強化するためのオンライン教材を提供します。これらの授業内容がどのように研究へリンクするのかをオンラインで明示します。早期に学生の研究志向性を高めるとともに、研究のデータ解析まで先取りすることを可能にします。また、オンライン教材を英語化して大学の国際化にも貢献します。

「バランスドオーシャンを通じた教育研究」Learning And Study by Balance de Ocean System (LASBOS) を冠につけた、LASBOS Moodle (<https://repun-app.fish.hokudai.ac.jp/lasbos>) で検索) の一般公開にあわせ、LASBOS Moodleのコース数を約400に拡充しました。現在、そのコース

群を分類分けして見やすくする作業を行っています。また、LASBOS YouTubeチャンネル(“lasbos YouTube”で検索)では100本を超える動画教材を公開しています。動画教材のうち23種をコレクションカード化してLASBOS cardと名付けました。これを総合博物館内の水産学部展示スペース(札幌キャンパス)や水産科学館(函館キャンパス)など学内各所で配布、さらに函館市国際水産・海洋総合研究センター(函館市弁天町)等の学外でも配布しています。観光客や市民の皆様が気軽に手に取れるカードを介して、北海道大学の海洋分野の教育研究活動を積極的に発信します。

今年度上半期は、海に関係した全学教育科目の授業紹介(ビジュアルシラバス)をLASBOS Moodleから発信、海をフィールドとして実習授業の動画教材をLASBOS YouTubeから配信してきました。北大の学生が分野や学年の枠を超えて海を学べる仕組みを強化しています。全学教育で学ぶ内容が、どのように専門教育につながり、どのような研究につながるのかを学生自ら

が見いだせるようにして、大学1年生のうちから研究を意識してもらいます。

今年度下半期は、LASBOS Moodleの多言語化、動画教材の多言語字幕化に加えて、海外大学に赴いての広報活動を開始し、優秀な留学生の獲得を目指します。

LASBOSは、本学の海洋分野の学術教育情報を発信するプラットフォームとして、北大教職員のみならずにご利用いただけます。

バランスドオーシャン運用部へお気軽にお問い合わせください。

お問い合わせ先：
 バランスドオーシャン運用部事務室
 水産科学研究院(函館キャンパス)
 マリンサイエンス創成研究棟1階
 0138-40-8885
badeoc@fish.hokudai.ac.jp

-----Balance de Ocean■
 (水産科学研究院)



配布のカード (LASBOS card 018 アカバギナンソウ)



函館市国際水産・海洋総合研究センターでのLASBOS card配布の様子



全学教育科目関連のコース (ビジュアルシラバス)

フードバンク道南協議会と「食品の譲渡等に係る合意書」を締結

函館キャンパスでは、防災対応の一つとして災害備蓄食料等を管理研究棟6階・備蓄倉庫に保管していますが、令和3年3月末で飲料水の賞味期限が到来するのを始めとして、順次、賞味期限が到来することから、災害備蓄用食料の更新時における取扱いについて検討を行ってきました。

まず第一は学内での有効活用を図ることとし、熱中症予防対策の一環として、夏休み期間中も卒業研究等のために出校する各研究室に配属されている学部4年及び大学院生等に対して、8月下旬に保存水を配付するとともに、実験・研究用として使用を希望する研究室に必要な数を配付しました。今後は、キャンパス一斉清掃や避難訓練等

の学内行事に参加する学生及び教職員（約200人）に対して配付し、食糧備蓄の必要性を啓発するために使用するなど、500mlのペットボトル約2,000本を学内で有効活用する予定としています。

残る保存水についても廃棄することなく、「食品ロス」削減の観点から、函館市において様々な理由から廃棄対象となる食品を集めて、必要とする施設、団体及び家庭へ配布を行う活動をしている「フードバンク道南協議会」へ提供し、有効活用していただくこととしました。

今後も継続的に災害備蓄用食料の更新が見込まれることから、災害備蓄食料をフードバンク活動に提供すること

に関して齟齬が生じることのないように「食品の譲渡等に関する合意書」を取り交わすこととし、9月29日（火）にフードバンク道南協議会の廣部節子代表及び中森 司事務局長に来学いただき、合意書を取り交わすとともに、保存水1,560本を提供しました。

今後も、水産科学研究院では、賞味期限が迫った災害備蓄食料について、学内で有効活用するとともに、本合意書に基づき、食品ロスの削減の推進に資するため、フードバンク活動の支援を行っていく予定です。

（水産科学院・水産科学研究院・水産学部）



合意書を取り交わす木村暢夫研究院長（右）と廣部代表（左）



提供する保存水の引き渡し



提供した保存水

動物慰霊式を挙行

医学研究院附属動物実験施設では、9月28日（月）、医学部学友会館において令和2年度動物慰霊式を新型コロナウイルス感染防止対策を取りながら執り行いました。

本慰霊式は、医学及び生命医科学の教育研究のために多数の動物の尊い生命が犠牲になっていることを厳粛に受

け止め、動物の霊を追悼するとともに、生命の尊厳と倫理について啓発することを目的に実施しているもので、教職員、学生等が参列しました。

はじめに渡邊雅彦施設長から追悼の辞を述べた後、吉岡充弘研究院長の挨拶、参列者全員による黙祷・献花を行いました。最後に渡邊施設長から適正

な動物実験の実施及びコロナ禍における感染防止策の徹底について、一層の理解と協力を願う旨の挨拶があり、厳粛のうちに慰霊式を終了しました。

（医学院・医学研究院・医学部）



追悼の辞を述べる渡邊施設長



吉岡研究院長による挨拶



参列者による献花

北方生物圏フィールド科学センター苦小牧研究林で 業務体験セミナーを開催

北方生物圏フィールド科学センター森林圏ステーション苦小牧研究林において、9月13日（日）に、一般の方を対象とした業務体験セミナーを開催しました。本セミナーは、我々大学職員の仕事内容について一般の方が知る機会ほとんどないことから、業務への理解を深めていただくことを目的としています。札幌市・岩見沢市・苫小牧市・むかわ町・斜里町から7名（女性3名・男性4名）の参加がありました。今回は、研究林のなかで職員数が多い技術職員・技能職員の業務に焦点を当てた内容で、当初は宿泊を伴うプログラムを企画していました。しかし、コロナ禍の実情を踏まえ、日帰り

プログラムとなりました。

当日は、まず、参加者に検温、手の消毒、マスクの着用にご協力いただき、換気と座席間隔の確保をした講義室にて、苫小牧研究林を含む当センター森林圏ステーション（研究林）の概要、研究林における研究・教育・フィールド管理の内容、これらの業務の中で技術職員・技能職員が果たしている役割について座学を行いました。その後、感染症対策を施したバスで森に入り、大規模シカ柵実験区や温暖化実験区などを案内しながら、研究内容や技術職員・技能職員の研究プロジェクトへの関わりについて説明し、参加者からの様々な質問に答えました。昼

食のあとは、研究林内を流れる幌内川で、魚の捕獲、魚種の判別、体長測定、胃内容物の採取などの魚類調査体験を実施しました。最後に、アカエゾマツ人工林に移動し、間伐木の選定や枝打ち作業などの育林作業を体験していただきました。

本セミナーを通じて、参加者の皆さんは大学職員の業務の一端に触れることができたのではないかと思います。苫小牧研究林では、コロナ禍の状況を見定めつつ、来年も業務体験セミナーの開催を検討しています。

（北方生物圏フィールド科学センター）



大規模シカ柵実験区の見学



捕獲機材を操る職員と魚を捕獲する参加者



アカエゾマツ人工林での枝打ち作業

国際食資源学院でオンラインによる大学院入試を実施

国際食資源学院では、8月24日（月）、25日（火）の2日間にわたり、大学院入学試験を実施しました。本年は新型コロナウイルス感染症拡大の状況を鑑みて、遠方在住者および感染に不安を持つ志願者が自宅で受験できるよう、全員オンライン受験としました。

6月と7月にZoomを用いて入試説明会を開催し、オンラインによる入試の方法について説明した他、TOEFL

やTOEICの公開テストが長期間中止されていることから、TOEIC IPテスト（オンライン）を導入し、英語能力試験を受験できなかった受験者の英語能力を審査しました。また、試験1週間前には受験者全員との事前の接続試験を実施し、Zoomの機能確認、カメラやマイクのチェックを行いました。

当日は、口頭試問及び小論文試験が実施されましたが、5月から実施体制について検討を重ね、教職員によるシ

ミュレーションやリハーサル、受験者との事前接続試験を行ったため大きな混乱もなく、無事に2日間の試験を終えることができました。

初めてのオンラインによる入試で、教職員の準備や体制整備には時間と手間を要しましたが、今回得られたノウハウを今後は海外からの受験等にも生かしていきたいと考えています。

（国際食資源学院）



小論文試験の打ち合わせを行う監督員

イナ・レーベル駐日ドイツ連邦共和国特命全権大使が来学



表敬後の記念撮影（中央：イナ・レーベル大使）

イナ・レーベル駐日ドイツ連邦共和国特命全権大使が9月7日（月）に北海道大学を訪問しました。

大使は農学研究院を訪れ、笠原正典総長代行と西邑隆徳農学研究院長から歓迎の挨拶を受けました。その後、野口伸農学研究院副研究院長から本学で研究に取り組んでいる次世代通信規格5Gを利用したスマート農業研究に

ついての説明を受け、北方生物圏フィールド科学センター生物生産研究農場に場所を移して、ロボットトラクターによる遠隔監視作業の実演を視察しました。

大使は、GNSS（全球測位衛星システム）Baseを利用した無人トラクターのコントロール技術、一般乗用車をベースとしたロボットトラクターによ



無人トラクター走行実演を視察する大使

るワイン用ブドウの生産技術、色付いたイチゴの実だけをロボットで収穫する技術などを目の当たりにし、自国の農業の担い手不足への活路を見いだされたようでした。

（国際部国際連携課）
（農学研究院・農学院・農学部）

在学・在職関係資料（1960～2000年代）を大学文書館で受贈

9月8日（火）、大学文書館では、南部 昇名誉教授から、在学期の資料（1960～1970年代）と在職期の資料（1980～2000年代）等をあわせて1箱ご寄贈いただきました。

南部名誉教授は、1964（昭和39）年教養部文類に入学され、文学部及び大学院文学研究科において学生生活を送られました。日本史学分野で古代戸籍の研究に取り組み、1984年文学部に助教授として着任された後は、教養部・文学部・大学院文学研究科の教育にも従事され、2009（平成21）年3月に定年退職されました。

この度、受贈した資料は、（1）教養部クラス雑誌、（2）北大生発行生活誌『GOEMON ごえもん』、（3）新歓パンフレット「楡」・「別冊 楡：教官アンケート」（1992年）や「文学

部紹介 第一版」（1974年秋）、（4）教養部クラス名簿（1984・1985年）、（5）文学部日本史学専攻移行生名簿（1984～1992、1996年）、（6）「北大紛争」時に配布されたピラ類（1969年）、（7）学長選挙時に配布されたピラ類（1980～2000年代）などです。

教養部クラス雑誌は、教養部2年19組『文集』（1969年）のほか、教養部文類1年2組（1964年度入学）の文集『燎原』が創刊号（1964年7月）～第3号（1968年2月）まで揃っています。教養部での科目履修を終え、学部に移行した後も、教養部同級生のつながりが強固であったことが感じられます。

また、北大広告研究会Ciaoが発行した『GOEMON』も、第1号（1989年）～第5号（1993年）まで揃って

ます。教養部の「教官大図鑑」や「鬼仏表」、教官・元学生へのインタビュー記事（高橋世織助教授、映像作家中島 洋氏）など豊富な企画で読み応えのある同誌は、後に作家として活躍される渡辺一史氏（代表作『こんな夜更けにバナナかよ』）が編集したものです。アンケートを依頼した教官宛ての手紙や御礼状なども挟み込まれており、同誌の編集過程もうかがうことができます。

今後、ご寄贈いただいた資料は大学文書館の沿革資料室収蔵庫において大切に保管し、整理作業を進めて、大学沿革史の企画展示や年史編纂にも反映させていただきます。

（大学文書館）



『燎原』 創刊号～第3号



『GOEMON』 第1号～第5号

博士学位記授与

本学大学院研究科等の所定の課程を修了した課程博士，及び本学に学位論文を提出して，その審査，試験等に合格した論文博士に対する学位記授与式について，今年度は新型コロナウイルス感染症対策のため規模を縮小し，各研究科等の総代のみを参加対象として，9月25日（金）午前10時から学術交流会館講堂において挙行了ました。

9月の被授与者の氏名と論文題目等は次のとおりです。

(学務部学務企画課)



学位記授与の様子

課程博士

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者		博士論文名
	氏名		
博士（文学）	きたやま しょうこ 北山 祥子		建国神話の政治学－檀君神話を中心に 主査：教授 権 錫永
	すずき じん 鈴木 仁		樺太における郷土文化の形成と展開 主査：教授 白木沢 旭児
	シユイ イ ラ 朱 依 拉		吉田喜重作品研究 主査：教授 応 雄
博士（法学）	よこほり あき 横堀 あき		ドイツ「地方自治」保障に関する一考察—国家権限画定のための「本旨」解釈に向けて— 主査：教授 西村 裕一
	ヨウフ スイ ガ 楊 瑞 賀		債権譲渡制限特約の効力に関する比較法的研究 主査：教授 池田 清治
博士（水産科学）	エン ナイ ソウ 閻 乃 箏		無鰾魚の音響散乱特性に関する研究 主査：教授 藤森 康澄
	リ 李	ウエン 雯	Studies on the biological activities of mottled skate (<i>Raja pulchra</i>) by-products and their possible industrial applications (カスベ(エイ)加工由来副生物の生物活性およびその産業応用に関する研究) 主査：特任教授 足立 伸次
	ワン 王	ダイ 迪	Studies on Histamine Production Properties and Control of <i>Morganella psychrotolerans</i> (<i>Morganella psychrotolerans</i> のヒスタミン産生特性と制御に関する研究) 主査：教授 佐伯 宏樹
博士（環境科学）	ジャキア ジェリン Jakia Jerin メヘジャビン Mehjabin		Studies on new secondary metabolites from the marine cyanobacterium <i>Moorea bouillonii</i> collected in Sabah, Malaysia (マレーシアサバ州で採集された海洋藍藻 <i>Moorea bouillonii</i> から得られた新規二次代謝産物に関する研究) 主査：教授 沖野 龍文

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者	博士論文名	
	氏名		
博士（環境科学）	フイン ティ カム Huynh Thi Cam ホン Hong	Roles of mangrove ecosystem in the sustainability of communities in the Vietnamese Mekong Delta: a case study in Soc Trang and Bac Lieu provinces (マングローブ生態系がベトナム・メコンデルタの地域社会の持続可能性に果たす役割：ソクチャン省とバクリュウ省における事例研究) 主査：准教授 藤井 賢彦	
	ソウ 宋	ウ トウ 雨 桐	Inhibitory effect of grape skin extracts on DNA damage caused by UV irradiation and development of cosmetics using the waste skin (紫外線照射によるDNA損傷に対するブドウの皮の抽出物の抑制効果および廃棄果皮を用いた化粧品の開発) 主査：特任准教授 藏崎 正明
	エムディー シブル Md. Shiblur ラハマン Rahaman	Alleviation of arsenic-induced toxicity by curcumin and D-pinitol, the main components of the herbs commonly used in Bangladesh, and their mechanism (バングラデシュで日常的に用いられているハーブの主成分であるクルクミンとD-ピニトールによるヒ素誘発毒性の緩和とそのメカニズム) 主査：特任准教授 藏崎 正明	
	モサマツ カニス Mst. Kaniz ファティマ ビンテ Fatima Binte ホセイン Hossain	Ameliorative mechanism of dietary components on cadmium or mercury-induced toxicities in PC12 cells (PC12細胞におけるカドミウムまたは水銀によって引き起こされる毒性に対する食物成分の改善メカニズム) 主査：特任准教授 藏崎 正明	
	じん 神	し 志 ほ 穂	Revisiting the relationship between resort companies and local communities focusing on personal communications: two case studies of Shimukappu Village in Hokkaido, Japan (個人的コミュニケーションに注目したリゾート企業と地域の関係の再考：北海道占冠村での2つの事例研究) 主査：教授 山中 康裕
	エン 閻	トウ 冬	Effect of sea ice melt on growth and photophysiological performances of sea ice diatoms in the Sea of Okhotsk (オホーツク海におけ海氷融解が海氷珪藻類の増殖と光合成生理能力に及ぼす影響) 主査：教授 鈴木 光次
	チ イ キン Zheng Xin	Studies on phase/structure transformable copper coordination polymers using bis(trifluoromethanesulfonyl)imide anion (ビス(トリフルオロメタンスルホニル)イミドアニオンを用いた相転移あるいは構造変化できる銅配位高分子に関する研究) 主査：教授 野呂 真一郎	
博士（理学）	グ エン キム NGUYEN Kim ガン Ngan	The Influence of Gravitationally Unstable Protoplanetary Disks on Type I Migration (重力不安定原始惑星系円盤のI型惑星移動への影響) 主査：客員准教授 Elizabeth J. Tasker	
	ブルワディ PURWADI	On relationships between lightning and observed phenomena and activities in thunderstorms, typhoons and volcanoes (雷放電と積乱雲、台風、および火山活動の関係に関する研究) 主査：教授 高橋 幸弘	
	い とう き おり 伊 藤 早 織	Reef disturbance archives in coral sclerochronological proxies and the responses on skeletal calcification (サンゴ骨格中の古環境指標及び成長パラメータに記録された生息環境の攪乱と石灰化応答) 主査：教授 永井 隆哉	
	イリ タニ ナオ キ 入 谷 直 輝 デーヴィス	Discovery, systematics, and taxonomy of new marine Apicomplexa and a myxozoan relative (アピコンプレックス類および近縁のミゾゾア類における未記載種の発見およびそれらの系統分類学的研究) 主査：教授 堀口 健雄	

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者		博士論文名
	氏名		
博士（理学）	うゑむらしんこ 植村慎吾	Population divergence by local adaptation to acoustic environments in the Ruddy Kingfisher (<i>Halcyon coromanda</i>) (アカシヨウビンにおける音響環境への局所適応がもたらす集団の分化に関する研究) 主査：教授 高木 昌興	
	エミヤチ EMİYATI	Marine Ecosystem Variation and Predictability of Sea Surface Temperature in the North Pacific (北太平洋における海洋生態系の変動と海洋表面水温の予測可能性) 主査：教授 見延 庄士郎	
	さとうたくま 佐藤拓真	Biogeographical studies on the least weasel (<i>Mustela nivalis</i>) and the feral Japanese marten (<i>Martes melampus</i>) (イイズナと移入種ニホンテンの生物地理学的研究) 主査：教授 増田 隆一	
	シバジサハ Shivaji Saha	Tectono-metamorphic evolution of the Himalayan metamorphic rocks: Insights from the Mandakini and Madhmaheswar Ganga river valley, Northwestern India (ヒマラヤ変成岩の造構-変成発展史：北西インドのMandakiniおよびMadhmaheswar Ganga川峡谷地域からの考察) 主査：特任教授 竹下 徹	
	シヤフレル SYACHRUL アリーブ ARIEF	Meteorological application of a dense GNSS network utilizing atmospheric delay gradient and crustal subsidence: The 2018 disastrous rain episode in SW Japan (大気遅延勾配と地殻上下変動を利用した稠密GNSS網の気象学的応用：平成30年7月豪雨の事例研究) 主査：教授 日置 幸介	
博士（農学）	アヌグラアディ Anugerah Adhi ラクサナ Laksana	Cyclic aminals from aldehydes and “roofed” mono- <i>N</i> -sulfonyl <i>cis</i> -diamines (アルデヒドと屋根付きモノ- <i>N</i> -スルホニル シス型ジアミンとの環状アミンール) 主査：准教授 福士 幸治	
	ムド MD アサダザマン SADUZZAMAN	Studies on the color improvement technique & mechanism with high ZnPP-forming bacteria in dry-cured meat products (乾塩漬食肉製品における高ZnPP形成細菌による色調改善技術とメカニズムに関する研究) 主査：准教授 若松 純一	
	ブラジャンケット PRAJANKET ブラダブラット PRADABRAT	Function of regulatory gene <i>PoLAE2</i> on appressorium formation in rice blast fungus <i>Pyricularia oryzae</i> (イネいもち病菌の包括的制御遺伝子 <i>PoLAE2</i> の付着器形成における役割) 主査：教授 曾根 輝雄	
	すがいづつと 菅井徹人	Study on the growth responses of larch species raised under elevated ozone, nitrogen loading, and saline soil (オゾン暴露、窒素付加、及び塩類土壌下におけるカラマツ属樹種の成長応答に関する研究) 主査：准教授 渡部 敏裕	
	ジャン 張 ジン 静 ユ 語	Molecular Genetic Study on a Nobel Early Flowering Mutant That Mitigates Floral Repression by Cool Temperature in Soybean (低温による開花抑制を緩和するダイズの新規早生変異体に関する分子遺伝学的研究) 主査：教授 金澤 章	
	サミア SAMIA クワイユム QUAIYUM	Investigation of bacteria that degrade bacterial cells (微生物細胞を分解する微生物に関する研究) 主査：客員准教授 加藤 創一郎	
	チャクラポン JUKKRAPONG ピンヨー PINYO	Adaptive changes in postprandial glucagon-like peptide-1 response and its role during the progression of diet-induced obesity and diabetic state in rats (食事誘導性肥満および糖尿病モデルラットにおける食後glucagon-like peptide-1分泌応答の変動とその役割) 主査：准教授 比良 徹	
	やびきなおき 矢挽尚貴	集落構造・集落組織の変化に対応した土地利用計画と農業生産基盤整備手法に関する研究 主査：教授 井上 京	

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者		博 士 論 文 名		
	氏 名				
博士（農学）	オードリー チャドディー Auldry Chaddy アナク ペトラス Anak Petrus ルドウト Rudut		Effects of long-term nitrogen fertilization on soil CO ₂ and N ₂ O fluxes in a tropical peatland (熱帯泥炭地における長期窒素施肥が土壌CO ₂ およびN ₂ Oフラックスに及ぼす影響) 主査：特任教授 波多野 隆介		
	グエン ティン NGUYEN TINH タン THANH		Development of a smart sprayer system for rice fields in the Vietnamese Mekong Delta (ベトナムメコンデルタ水田用スマート防除システムの開発) 主査：教授 野口 伸		
	ヌル ワヒド NUR WAKHID		Soil CO ₂ emissions and net primary production in agricultural plantations on tropical peat (熱帯泥炭地の農業プランテーションにおける土壌CO ₂ 放出量と純一次生産) 主査：教授 平野 高司		
	ワン 王	リン 林	ビン 萍	Analysis of solution structure of isolated lignins and their related compound with size-exclusion chromatography equipped with a multi-angle light scattering detector (光散乱検出器を備えたサイズ排除クロマトグラフィーを用いた単離リグニン及び関連化合物の溶液構造の解析) 主査：教授 松浦 英幸	
博士（生命科学）	しば 柴	た 田	ゆう 優	き 輝	Bactericidal effect of cationic hydrogels prepared from hydrophilic polymers (親水性高分子から調製したカチオン性ハイドロゲルの殺菌効果に関する研究) 主査：教授 黒川 孝幸
	ツイ 崔		ウェイ 为		Design and Development of Soft Fiber-Reinforced Polymer Composites with Extraordinarily High Crack Resistance (非常に高い亀裂耐性を示すソフト繊維強化ポリマー複合材料の設計と創製) 主査：教授 龔 劍萍
	ひら 平	やま 山	まこと 悟	し 史	Non-Linear Analysis of Frictional Interface of Hydrogels (ハイドロゲルの摩擦界面における非線形解析) 主査：教授 黒川 孝幸
博士（薬科学）	ショウ 蔣	ケン 欣	ケン 欣		Molecular recognition mechanism of novel KIR2DS1 specific monoclonal antibodies (新規KIR2DS1特異的モノクローナル抗体の分子認識機構の解析) 主査：教授 前仲 勝実
	マ ハ モ ド MAHMOUD ア ブ バ ク ル ABUBAKR ア ハ メ ド AHMED ヨ ニ ス YOUNIS				Design of Novel Targeted Co-delivery System for Combined Chemotherapy and Gene Therapy of Hepatocellular Carcinoma (肝細胞癌に対する化学療法と遺伝子治療の新規併用療法の確立) 主査：教授 原島 秀吉
博士（教育学）	よこ 横	ぜき 関	り 理	え 恵	戦後の公立夜間中学の成立過程と学校運営に関する歴史的研究-1950~1970年代の奈良県と大阪府を中心に- 主査：教授 横井 敏郎
	マ ー ク ル ス オ ン Marcruz Yew ユ ー リ Lee Ong				日本の幼稚園で幼児はどのように数的認識を発達させるか-幼児教育実践に埋め込まれた十進法とその役割- 主査：准教授 川田 学
博士（観光学）	えん 遠	どう 藤	り 理	いち 一	移動的な社会としての占領期日本に関する観光学的考察 主査：教授 清水 賢一郎
	たか 高	まつ 松	くに 郷	こ 子	平和創出観光に関する研究 パレスチナにおけるコミュニティ・ベースド・ツーリズムを事例として 主査：教授 山村 高淑
博士（保健科学）	ニ ヤ ン ベ NYAMBE シ コ ポ SIKOPO ポ ー リ ン PAULINE				Peri-urban water, sanitation, hygiene and waste management in Lusaka, Zambia: Participatory action research for assessment and intervention (ザンビア共和国ルサカにおける飲用水、サンテーション、衛生、廃棄物処理：参加型アクションリサーチによる評価と介入) 主査：特任教授 齋藤 健
博士（工学）	もち 望	つき 月	けん 健		Topological Phenomena in Quantum Walks owing to Peculiarity of Floquet and/or Open Systems (フロケ系や開放系に特有の性質に起因する量子ウォークのトポロジカルな現象) 主査：教授 矢久保 考介

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者		博 士 論 文 名
	氏 名		
博士（工学）	史 鏡 明		The effect of point defects on irradiation damage of Fe-based composite materials for fusion reactor (核融合炉用Fe基複合材料の照射損傷に及ぼす点欠陥の影響) 主査：教授 橋本 直幸
	張 聖 華		Development of γ/α Transformable FeCrAl Oxide Dispersion Strengthened Alloys by Cobalt and Nickel Addition (コバルトやニッケル添加により γ/α 変態を可能とする酸化物分散強化FeCrAl合金の開発) 主査：准教授 林 重成
	フビール HUBBY イッズディン 'IZZUDDIN		Study on High-Temperature Corrosion of Ni-based Alloys in Atmosphere Containing Alkali Metal Chloride Vapor (アルカリ塩化物蒸気を含有する雰囲気中におけるNi基合金の高温腐食挙動に関する研究) 主査：准教授 林 重成
	なが ち まさ し 永 地 大 志		微小重力下における電線被覆上燃え拡がり火炎の消炎限界に及ぼす周囲環境条件の影響 主査：教授 藤田 修
	サーボウン SAHBOUN ナッシ ヴローリアン Nassim Florian		Investigation of Corium/debris field behavior for Decommissioning and Nuclear Safety Assessment (廃止措置と原子力安全評価のための溶融コリウム・燃料デブリの挙動研究) 主査：教授 澤 和弘
	ティワリ ニーツ Tiwari Neetu		CFD assisted quantitative flow measurement of Newtonian and non-Newtonian fluid flows (ニュートン・非ニュートン流体に対する計算流体力学支援型の流体計測技術の開発) 主査：教授 村井 祐一
	カルロス エドゥアルド Carlos Eduardo オルドニェスカステイロ Ordonez Castillo		Application of gold nanoparticles as representative colloids to understand environmental fate and behavior in barrier materials relevant to radioactive waste disposal (金ナノ粒子を適用した放射性廃棄物処分バリア材中のコロイドの環境動態・挙動の研究) 主査：准教授 渡邊 直子
	ヤン スービン Yang Subing		Microscopy study of correlation between residual elastic strain and defects in He ⁺ ion irradiated 4H-SiC (He ⁺ イオン照射した4H-SiCの残留弾性歪と欠陥の相互関係に関する顕微鏡的研究) 主査：教授 柴山 環樹
	え がわ たく や 江 川 拓 也		火山灰質地盤における杭基礎の耐震性評価技術および耐震補強技術に関する研究 主査：准教授 磯部 公一
	リン 天 舒 Lin Tian Shu		Influence of dynamic mechanical properties of subgrade soil in cold climate on fatigue life of road pavement (寒冷気候下の路床土の動的力学特性が道路舗装の疲労寿命に及ぼす影響) 主査：教授 石川 達也
	おお ひろ とも のり 大 廣 智 則		高速道路における冬期路面管理の高度化に関する研究 主査：教授 萩原 亨
	パッタラポン Pattharaphon チンダシリバン Chindasiriphan		Evaluation of Self-healing Ability of Concrete Produced with Supplementary Cementitious Materials and Superabsorbent Polymer (セメント系混和材と高吸水性樹脂を混入したコンクリートの自己治癒能力の評価) 主査：特任教授 横田 弘
	ヤーフン ジャン Yafen Zhang		Application of Information Technology to Maintenance Management of Civil Infrastructure with BIM Collaboration Platform (BIMプラットフォームで連携した情報技術のインフラ維持管理マネジメントへの適用) 主査：特任教授 横田 弘
カーン アースラン KKHAN Arslan クアイヤム Qayyum		Boundary Conditions of Panel RC Slabs for Realistic Fatigue Behavior Analysis of Bridge RC Slabs (RC床版疲労解析における輪荷重走行試験体と実橋との等価境界条件の研究) 主査：教授 松本 高志	

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者		博 士 論 文 名
	氏 名		
博士（工学）	シュ ミャオ チャン Zhu Miaochang		Bond behavior and degradation mechanisms of Multi-functional Fabric Reinforced Cementitious Matrix (MFRCM) composites used for ICCP-SS (ICCP-SS工法に用いる多機能型繊維補強セメント系複合材料 (MFRCM) の付着挙動と劣化メカニズム) 主査：准教授 松本 浩嗣
	さ の たけ し 佐 野 剛 志		建物地震応答制御用の摩擦ダンパーの性能向上と摩擦機構の応用方法に関する研究 主査：准教授 白井 和貴
	セオル スン ホン 薛 成 勲		Study on Adsorption Heat Pump Using Composite Natural Mesoporous Material as Low-Carbon Air Conditioning (天然メソポーラス材料を用いた吸着式ヒートポンプによる低炭素空調) 主査：教授 長野 克則
	やま ぐち なお ひさ 山 口 直 久		集約型還元溶融を用いた一般廃棄物中有用金属回収システム提案に関する研究 主査：特任教授 松藤 敏彦
	ハム グン ヨン Ham Geun-Yong		Study on Bio-drying MBT by modelling of moisture removal and evaluation as MSW management system for energy recovery (水分除去モデリング及びエネルギー回収効率評価によるバイオドライイングMBTシステムの研究) 主査：特任教授 松藤 敏彦
	あり ま たか ひこ 有 馬 孝 彦		泥質岩掘削ずりから溶出するヒ素およびセレンの化学形態を考慮した溶出・吸着特性と試験環境の影響に関する研究 主査：教授 五十嵐 敏文
	グ エン ティ Nguyen Thi フン タオ Phuong Thao		Mechanism of redox potential dependent chalcopyrite dissolution in acidic ferric chloride solutions (酸性塩化第二鉄溶液中での酸化還元電位に依存する黄銅鉱溶解のメカニズム) 主査：教授 廣吉 直樹
	シバク マール Sivakumar ゴウ サマン Gowthaman		Experimental Study on Near-surface Stabilization of Slopes in Cold Region using Bio-mediated Geotechnical Engineering (生物を利用した地盤工学による寒冷地の法面表層安定化に関する実験的研究) 主査：教授 川崎 了
	スントーンウィパート Soonthornwiphat ナタットサワッス Natatsawas		Applicability and long-term safety assessment of geopolymer and cement disposal systems for spent titanate adsorbent from decontamination of wastewater at Fukushima Daiichi Nuclear Power Station (福島第一原子力発電所における廃水処理で発生した使用済チタン酸塩吸着材のジオポリマーおよびセメント固化処分の適用性および長期安全評価) 主査：教授 佐藤 努
	ウオッティ ホーン Vothy Hornn		Development of Agglomeration-Flotation for Finely Ground Copper Sulfides (微粉碎した硫化銅鉱の造粒浮選法の開発) 主査：准教授 伊藤 真由美
ルトフイアン ラスディ Lutfian Rusdi ダーヨノ Daryono		Beachrock formation mechanism and its application to developing beach sand cementation method based on microbial induced carbonate precipitation (MICP) : Case study of Krakal-Sadranan, Yogyakarta, Indonesia (ビーチロック形成機構と微生物による炭酸塩析出に基づく海浜砂セメンテーション法の開発への応用:クラカル-サドラナン (ジョグジャカルタ、インドネシア) における事例研究) 主査：教授 川崎 了	
トラン シー TRAN THI ホアイ ジャン HOAI GIANG		Fabrication of Polystyrene Colloidal Crystal Films by Electrophoretic Deposition and Structural Color Control (電気泳動堆積法によるポリスチレンコロイド結晶の作製と構造色の制御) 主査：教授 忠永 清治	

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者		博士論文名
	氏名		
博士（理学）	モウシュミ アクター Mousumi Akter		Study on Photoregulated Biomolecular Motor-based Microrobot and its Application in Active Transport (生体分子モーターを基礎とするマイクロロボットの光制御と能動輸送への応用に関する研究) 主査：教授 坂口 和靖
	いち はら 文 彦 Ichihara Fumihiko		Analysis of Carrier Dynamics in Photocatalytic Materials Using Ultrafast Spectroscopy (超高速分光法をもちいた光触媒材料内のキャリアダイナミクスの解析) 主査：教授 村越 敬
	チェン Chen	ベン ルー 茹 Ben Lu Ru	Carbon-catalyzed Hydrolysis of Cellulose to Cello-oligosaccharides (炭素触媒によるセルロースのセロオリゴ糖への加水分解反応) 主査：教授 村越 敬
	チョウ Chou	レイ メイ 明 Lei Mei Ming	Theoretical Study on the Mechanism of Transition Metal Catalyzed Reactions and Spin-Forbidden Reactions (遷移金属錯体による触媒反応およびスピン禁制反応のメカニズムに関する理論的研究) 主査：教授 武次 徹也
	のう 能 Nou	じょう 條 航 Jyoh Jo Koh	Control of Various Physical Properties Using Structural Changes of Redox Active Aromatic Amines (芳香族アミンの酸化還元に基づく構造変化を利用した多彩な物性制御に関する研究) 主査：教授 澤村 正也
	まち 町 Machi	だ 田 崇 Da Ta Takashi	Large Structural Change of Aggregation-Induced Emission (AIE) Molecules in the Excited State (励起状態における凝集誘起型発光 (AIE) 分子の大きな構造変化) 主査：教授 武次 徹也
	ワン Wan	ユ 淳 Yu Jun	Studies on Plasmon-Driven Efficient Multi-Electron Transfer Reactions at Electrified Interfaces (電気化学界面におけるプラズモン誘起高効率多電子移動反応に関する研究) 主査：教授 武次 徹也
博士（工学）	まつ 松 Matsu	だ 田 武 士 Da Ta Takashi	Study on Advanced Antirust Coatings Using pH Sensitive Microcapsules (pH応答型マイクロカプセルを活用した次世代防錆被膜に関する研究) 主査：教授 安住 和久
	リュウ Ryuu	イ 維 I I	Graphitic Carbon Nitride Based Photocatalysts: Design, Synthesis and Properties Investigation (黒鉛相窒化炭素基光触媒の設計・合成と性能研究) 主査：教授 安住 和久
	ワン 汪 Wan Wang	ニン 寧 Nin Ning	Development of Proton Oxide-Ion Electron Triple Conducting Electrodes for Protonic Ceramic Cells (プロトンセラミックセルに用いるプロトン-酸化物イオン-電子混合伝導性電極の開発) 主査：教授 島田 敏宏
博士（医学）	ウー 呉 Wu	ディー 迪 Di Di	A novel insight into the pathogenesis of refractory sight-threatening ocular diseases (難治性眼疾患に対する新たな病態形成機序の解明) 主査：教授 神谷 温之
	うえ の 野 Ueno	たかし 峰 Takashi Mine	肝外胆管癌の局所免疫環境におけるprogrammed cell death ligand 1 (PD-L1) 発現の意義と臨床病理学的因子との関連性の検討 (Studies on programmed cell death ligand 1 (PD-L1) expression in immunological microenvironment and its association with clinicopathological factors in extrahepatic cholangiocarcinoma) 主査：准教授 神山 俊哉
	おお 大 Ooh	もり 森 一 乃 Mori Ichinori	膵β細胞量増加を目指した新たな2型糖尿病治療法の確立 (Establishment of novel therapeutic approach for type2 diabetes aimed at increasing pancreatic beta-cell mass) 主査：教授 武富 紹信

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者		博 士 論 文 名
	氏 名		
博士（医学）	たか はし ひろ こ 高 橋 周 子		羊膜由来間葉系幹細胞を用いた糖尿病性潰瘍の治療法の開発 (Development of therapy for diabetic ulcers using amnion-derived mesenchymal stem cells) 主査：教授 近藤 亨
	チャン 陳	キ逸 ヒン軒	Statistical modeling to estimate the protective effect of case isolation and reconstruct transmission dynamics during the 2014 Ebola virus disease epidemic (2014年エボラウイルス病流行における個別情報を基にした感染者隔離の有効性評価) 主査：教授 高橋 誠
	デン 田	エン 園	Study on the local administration of the nerve growth factor antibody on knee joints' pain in a rat osteoarthritis model (ラット変形性関節症モデルの膝関節痛に対する神経成長因子抗体局所投与に関する研究) 主査：教授 藤山 文乃
	ふか ざく やす とも 深 作 慶 友		ヒト化マウスモデルを用いた生体肝移植後レシピエントのアロ抗原反応における新規解析法の検討 (Novel immune assay of allo-reactivity for living donor liver transplant recipients by using humanized mouse model) 主査：教授 坂本 直哉
	ユアン 袁	バオ 保	イン 印
博士（獣医学）	ベンジャポーン Benjaporn キヤットバックディー KIATPAKDEE		Essential roles of cholesterol-binding membrane protein TSPO2 in maturation and proliferation of erythroblasts in mice (マウス赤芽球の成熟と増殖におけるコレステロール結合蛋白質TSPO2の役割) 主査：教授 稲葉 陸
	エカポル Ekkapol アカラプティポーン AKARAPHUTIPORN		The cellular physiology of canine chondrocytes: An <i>in-vitro</i> study on phenotype regulation and characteristics of cell death (犬軟骨細胞の細胞生物学的態度：培養環境における分化調節と細胞死に関する研究) 主査：教授 奥村 正裕
	カイシリ Kraisiri キーキーン KHIDKHAN		Toxicological studies on feline cytochrome P450 associated with environmental chemical exposures (環境化学物質への曝露に関するネコのシトクロムP450の毒性学的研究) 主査：教授 石塚 真由美
	マルセラ Marsela メガサリ MEGASARI		Characterization of genetic diversity of bovine trypanosomes in African and Middle Eastern countries (アフリカおよび中近東におけるウシ感染性トリパノソーマ原虫の遺伝的多様性に関する研究) 主査：准教授 山岸 潤也
	ラタナ Ruttana パチャノン PACHANON		Impact of QnrB19, a pentapeptide repeat protein mimicking double stranded DNA, on the quinolone resistance in <i>Salmonella</i> Typhimurium. (二重鎖DNAを模倣するペントペプチド繰返し蛋白QnrB19のネズミチフス菌キノロン耐性化への影響) 主査：教授 鈴木 定彦
	ラ ミュ チュー Hla Myet Chel		Morphological and molecular study on gastrointestinal parasites of Asian elephants in Myanmar (ミャンマーのアジアゾウにおける消化管内寄生虫に関する形態学および分子学的研究) 主査：教授 野中 成晃
	た なか み さき 田 中 美 咲		Studies on cell-autonomous mechanisms for neurodegeneration in prion disease (プリオン病における神経細胞自律的変性機構に関する研究) 主査：教授 堀内 基広
博士（医理工学）	イシュラク Ishraque アハメド AHMED		Enhancement of the activity of oncolytic adenovirus by augment HuR export of host cells (RNA結合タンパクHuRの核外輸送活性化による腫瘍溶解アデノウイルスの効果増強) 主査：准教授 東野 史裕

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者		博士論文名
	氏名		
博士（医理工学）	さわむらだいすけ 澤村大輔		Noninvasive evaluation of the brain by using recent magnetic resonance imaging techniques (最新MRI法を用いた脳の新侵襲的評価) 主査：准教授 タ キンキン
	さとうりょうた 佐藤良太		MRI定量的磁化率マッピングの適用拡大に関する検討 (Studies on Expansion of Applicability of Quantitative Susceptibility Mapping) 主査：准教授 タ キンキン
	ホッサイン エロラ HOSSAIN Elora		Oncolytic Adenovirus Utilizing RNA Stabilization Mechanism Can Synergize with Chemotherapy (RNA安定化メカニズムを応用した腫瘍溶解性アデノウイルスとそのがん化学治療法との相乗効果) 主査：准教授 東野 史裕
博士（情報科学）	ふるやいさむ 古谷 勇		Repetition-Aware Lossless Compression (反復構造のための可逆圧縮) 主査：教授 有村 博紀
	すがやてるじ 菅谷 輝 治		Studies on New Tractable Indexing Structures and Rapid Compilation Methods for Graph-Substructures (グラフ部分構造を扱う新規索引構造と高速コンパイル法に関する研究) 主査：教授 吉岡 真治
博士（工学）	Prasoon アンバラサンカンディ Ambalathankandy		Real-time Contrast Management in Digital Images using Local Histogram Equalization Filter (デジタル画像における局所ヒストグラム平均化を用いたリアルタイムコントラスト調節手法) 主査：教授 浅井 哲也
博士（情報科学）	いさる イ 章	レイ ケツ 傑 レイ ケツ 傑	A Study on High-Speed Calculation using the Characteristics of Human Eyes in Computer-Generated Hologram (計算機合成ホログラムにおける人間の目の特性を利用した高速計算に関する研究) 主査：教授 坂本 雄児
博士（工学）	ふり フ 付	ユウ 裕 ユウ 裕	高速ベアリングレスモータの効率と出力密度の向上に関する研究 主査：教授 小笠原 悟司

論文博士

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者		博士論文名
	氏名		
博士（環境科学）	こおねまりな 小 船 茉莉奈		汚染地下水浄化を目指した担持ニッケル触媒による水中硝酸イオン還元反応 (Reduction of nitrate in water over supported nickel catalysts toward purification of polluted groundwater) 主査：教授 神谷 裕一
博士（農学）	やまねつよし 山 根 剛		牛ふん堆肥ペレットの黒ボク土畑への施用に伴う一酸化二窒素の発生およびその発生制御に関する研究 主査：特任教授 波多野 隆介
博士（教育学）	やまぎしとしつぐ 山 岸 利 次		統計的教育思想の生成と展開-道徳統計における「社会的なるもの」と教育- 主査：教授 白水 浩信
	やまだちはる 山 田 千 春		後期中等教育における高等専修学校の研究-高校教育に対する「補完」の実態- 主査：教授 松本 伊智朗
博士（獣医学）	まるいなかのり 丸 井 崇 則		臓器移植における抗ドナー特異的抗体産生に対するPI3K δ 選択的阻害剤の抑制効果 主査：教授 乙黒 兼一
	にし たつや 西 達 也		Studies on the molecular basis of the pathogenicity of foot-and-mouth disease virus (口蹄疫ウイルスの病原性の分子基盤に関する研究) 主査：教授 迫田 義博

■ 諸会議の開催状況

役員会（令和2年9月7日）

協議事項・全学運用教員の措置について

報告事項・役員の退職手当の支給について

- ・役員の期末手当について
 - ・教育関係共同利用拠点の認定について
 - ・新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえた令和3年度の国立大学の学部における定員超過に係る国立大学法人運営費交付金の取扱いについて
 - ・令和2年度運営費交付金における評価結果について
 - ・令和3年度概算要求の重点支援にかかる評価指標（KPI）の進捗状況について
-

教育研究評議会（令和2年9月11日）

議 題・教員の懲戒について

教育研究評議会（令和2年9月16日）

報告事項・教育関係共同利用拠点の認定について

- ・令和2年度運営費交付金における評価結果について
 - ・令和3年度概算要求の重点支援にかかる評価指標（KPI）の進捗状況について
-

経営協議会（令和2年9月24日）

議 題・役員の退職手当の支給について

報告事項・次期総長予定者の選考結果について

- ・役員の期末手当について
 - ・令和3年度概算要求の重点支援にかかる評価指標（KPI）の進捗状況について
-

教育研究評議会（令和2年9月24日）

議 題・教員の懲戒について

役員会（令和2年9月28日）

議 案・令和2年度内部統制システムモニタリングテーマ候補について

- ・クロスアポイントメントの適用について
- ・臨床研究データ利用許諾等規程の整備について
- ・工学部資源棟新営工事に係る土壌汚染対策法への対応と施設整備費補助金の計画変更について
- ・諸規則の制定について

報告事項・障害者の雇用状況等について

- ・令和2年度卓越大学院プログラムの審査結果について
 - ・令和元事業年度財務諸表の承認について
-

※規程の制定、改廃については、「学内規程」欄に掲載しています。

■ 学内規程

北海道大学学生相談総合センター規程の一部を改正する規程

(令和2年9月29日海大達第127号)

学生相談総合センターの業務をより効率的かつ適切に遂行するため、副センター長及び副室長の配置等、室長に充てる職並びに個人情報等の提供に係る扱いを見直すことに伴い、所要の改正を行うとともに、併せて規定の整備を行ったものです。

国立大学法人北海道大学組織規則の一部を改正する規則

(令和2年10月1日海大達第128号)

国立大学法人法の規定に基づき、令和2年10月1日付けで、非常勤の理事1名を含む8名の理事を置くことに伴い、所要の改正を行ったものです。

国立大学法人北海道大学総長選考会議規程の一部を改正する規程

(令和2年10月1日海大達第129号)

国立大学法人北海道大学事務組織規程の一部を改正する規程

(令和2年10月1日海大達第132号)

国立大学法人北海道大学法人文書管理規程等の一部を改正する規程

(令和2年10月1日海大達第135号)

令和2年10月1日付けで、事務局に新たに企画調整役を置くこと及び政策調整室に置く職の構成を見直すことに伴い、所要の改正を行うとともに、併せて規定の整備を行ったものです。

国立大学法人北海道大学広報室規程の一部を改正する規程

(令和2年10月1日海大達第130号)

令和2年10月1日付けで、広報室の組織を見直すことに伴い、所要の改正を行ったものです。

国立大学法人北海道大学理事の任命及び任期に関する規程の一部を改正する規程

(令和2年10月1日海大達第131号)

国立大学法人法の規定に基づき、理事の任命に係る規定を見直すことに伴い、所要の改正を行ったものです。

国立大学法人北海道大学成果有体物取扱規程の一部を改正する規程

(令和2年10月1日海大達第133号)

本学における教育若しくは研究の結果又はその過程で得られた成果有体物のうち、臨床研究等により得られたデータ等の提供に関しては、国立大学法人北海道大学臨床研究データ利用許諾規程を適用することに伴い、所要の改正を行ったものです。

国立大学法人北海道大学臨床研究データ利用許諾規程

(令和2年10月1日海大達第134号)

臨床研究等に関するデータ等の学術上及び産業上の利用の促進に資するため、本学における臨床研究等により得られたデータ等の利用許諾に関し必要な事項について、所要の定めを行ったものです。

国立大学法人北海道大学オープンファシリティ使用規程の一部を改正する規程

(令和2年10月1日海大達第136号)

本学のオープンファシリティについて、設備の登録及び取消を行うことに伴い、所要の改正を行ったものです。

北海道大学遺伝子病制御研究所規程の一部を改正する規程

(令和2年10月1日海大達第137号)

令和2年10月1日付けで、遺伝子病制御研究所病態研究部門の研究分野を廃止し、及び新設することに伴い、所要の改正を行ったものです。

■表敬訪問

海外

年月日	来訪者	来訪目的
2.9.7	駐日ドイツ連邦共和国大使館 Ina LEPEL大使	両国の交流に関する懇談
2.9.18	駐日インドネシア共和国大使館 Tri PURNAJAYA臨時代理大使	両国の交流に関する懇談



Ina LEPEL 駐日ドイツ連邦共和国大使 (中央)



Tri PURNAJAYA駐日インドネシア共和国臨時代理大使 (中央左)

(国際部国際連携課)

■人事

令和2年10月1日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【役員】 総長 (期間：令和8年3月31日まで) 理事(副学長) (期間：令和4年3月31日まで) 理事(副学長) (期間：令和4年3月31日まで) 理事(副学長) (期間：令和4年3月31日まで) 理事(副学長) (期間：令和4年3月31日まで) 理事 (期間：令和4年3月31日まで) 理事 (期間：令和4年3月31日まで) 理事 (期間：令和4年3月31日まで)	寶 金 清 博 山 口 淳 二 横 田 篤 吉 見 宏 増 田 隆 夫 山 本 文 彦 村 田 善 則 菅 原 修 孝 梅 原 俊 志	大学院保健科学研究院特任教授 大学院理学研究院教授 大学院農学研究院教授 大学院経済学研究院教授 大学院工学研究院特任教授 大学院文学研究院教授 理事 理事(事務局長) 理事
【副学長】 副学長 (期間：令和4年3月31日まで) 副学長 (期間：令和4年3月31日まで) 副学長 (期間：令和4年3月31日まで) 副学長 (期間：令和4年3月31日まで)	秋 田 弘 俊 卯 和 順 石 森 浩一郎 長谷山 美 紀	北海道大学病院教授 大学院文学研究院教授 創成研究機構化学反応創成研究拠点・大学院理学研究院教授 国際連携研究教育局・大学院情報科学研究院教授
【部局長・施設長等】 大学文書館長 (期間：令和4年3月31日まで) 学生相談総合センター長 (期間：令和4年9月30日まで) 技術支援本部長 (期間：令和4年3月31日まで) アドミッションセンター長 (期間：令和4年3月31日まで) 人材育成本部長 (期間：令和4年3月31日まで) 創成研究機構長 (期間：令和4年3月31日まで) 高等教育推進機構長 (期間：令和4年3月31日まで) サステイナブルキャンパスマネジメント本部長 (期間：令和4年3月31日まで) 安全衛生本部長 (期間：令和4年3月31日まで)	山 本 文 彦 安 達 潤 山 本 文 彦 山 口 淳 二 山 口 淳 二 増 田 隆 夫 山 口 淳 二 横 田 篤 菅 原 修 孝	理事(副学長) 大学院教育学研究院教授 理事(副学長) 理事(副学長) 理事(副学長) 理事(副学長) 理事(副学長) 理事(副学長) 理事

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
産学・地域協働推進機構長 (期間：令和4年3月31日まで)	増 田 隆 夫	理事 (副学長)
総合IR室長 (期間：令和4年3月31日まで)	長谷山 美 紀	副学長
国際連携機構長 (期間：令和4年3月31日まで)	横 田 篤	理事 (副学長)
附属図書館長 (期間：令和4年3月31日まで)	山 本 文 彦	理事 (副学長)
大学院理学研究院附属ゲノムダイナミクス研究センター長 (期間：令和4年9月30日まで)	小 川 宏 人	大学院理学研究院教授
【教授】 大学院法学研究科教授 大学院理学研究院教授 大学院理学研究院教授 大学院農学研究院教授 大学院メディア・コミュニケーション研究院教授 大学院情報科学研究院教授 電子科学研究所附属グリーンナノテクノロジー研究センター教授 遺伝子病制御研究所教授 (転出) 東京大学教授 東京大学教授	櫛 橋 明 香 沢 田 健 安 田 正 大 ATSUMI SHOTA 城 山 英 巳 土 橋 宜 典 西 井 準 治 茂 木 文 夫 伊 藤 一 頼 鈴 木 一 人	大学院法学研究科准教授 大学院理学研究院准教授 大阪大学准教授 大学院農学研究院准教授 採用 大学院情報科学研究院准教授 理事 (副学長) 採用 大学院公共政策学連携研究部教授 大学院公共政策学連携研究部教授
【部長】 工学系事務部長 (兼) 企画調整役	大 道 元	工学系事務部長
【次長】 財務部次長	佐々木 博 之	政策調整室長
【課長・事務長・室長】 政策調整室長 総務企画部広報課長 メディア・観光学事務部事務長 (兼) 財務部 工学系事務部情報科学研究院事務課長	乾 優 紀 子 菊 池 洋 美 馬 場 勝 浩 紙 丸 雅 実	総務企画部広報課長 工学系事務部情報科学研究院事務課長 政策調整室室長代理 メディア・観光学事務部事務長

新任部局長等紹介

令和2年10月1日付

学生相談総合センター長に



あだち じゅん
安達 潤 教授

令和2年9月30日限りで児矢野マリ学生相談総合センター長が辞任したため、その後任として安達 潤教授が発令されました。

任期は令和4年9月30日までです。

略 歴

昭和35年4月28日生
 昭和59年3月 北海道大学教育学部卒業
 昭和62年3月 北海道大学大学院教育学研究科修士課程教育学専攻修了
 平成4年3月 北海道大学大学院教育学研究科博士後期課程教育学専攻単位取得退学
 昭和62年3月 修士（教育学）（北海道大学）
 昭和59年10月 札幌市立東保健所非常勤心理技術者
 平成2年4月 札幌市みかほ整肢園・ひまわり整肢園精神発達相談員（非常勤）
 平成4年4月 重症心身障害児施設社会福祉法人旭川荘療育主任（心理判定員）
 平成14年4月 北海道教育大学教育学部旭川校助教授（障害児臨床専攻）
 平成19年4月 北海道教育大学教育学部旭川校准教授（教育発達専攻特別支援教育分野）
 平成20年4月 北海道教育大学教育学部旭川校教授（教育発達専攻特別支援教育分野）
 平成27年4月 北海道大学大学院教育学研究院教授（臨床心理学講座）

新任教授紹介

令和2年10月1日付



法学研究科教授に

くしはし さやか
櫛橋 明香 氏

法学政治学専攻現代法講座

最終学歴

東京大学大学院法学政治学研究科博士課程修了（平成25年2月）
博士（法学）（東京大学）

専門分野

民法



理学研究院教授に

さわだ けん
沢田 健 氏

地球惑星科学部門
地球惑星システム分野

生年月日

昭和43年4月18日

最終学歴

名古屋大学大学院理学研究科（平成10年1月）
博士（理学）（名古屋大学）

専門分野

有機地球化学，堆積地質学，古環境・古気候学



理学研究院教授に

やすだ せいだい
安田 正大 氏

数学部門数学分野

生年月日

昭和49年1月26日

最終学歴

東京大学大学院数理科学研究科博士後期課程修了（平成13年3月）
博士（数理科学）（東京大学）

専門分野

整数論・数論幾何学



農学研究院教授に

アツミ ショウタ
ATSUMI SHOTA 氏

食水土資源グローバルセンター

最終学歴

京都大学大学院理学研究科博士課程修了（平成14年3月）
博士（化学）（京都大学）

専門分野

化学



メディア・コミュニケーション
研究院教授に

しるやま ひでみ
城山 英已 氏

メディア・コミュニケーション部門
ジャーナリズム論分野

生年月日

昭和44年8月17日

最終学歴

早稲田大学大学院社会科学研究科博士後期課程修了（令和2年7月）
博士（社会科学）（早稲田大学）

専門分野

現代中国論，日中関係史，ジャーナリズム論



情報科学研究院教授に

どいし よしのり
土橋 宜典 氏

メディアネットワーク部門
情報メディア学分野

生年月日

昭和44年7月14日

最終学歴

広島大学大学院工学研究科博士後期課程修了（平成9年3月）
博士（工学）（広島大学）

専門分野

コンピュータグラフィックス



遺伝子病制御研究所教授に

もてぎ ふみお
茂木 文夫 氏

病態研究部門発生生理学分野

生年月日

昭和49年 9月17日

最終学歴

東京大学大学院総合文化研究科博士課程修了（平成14年 3月）
博士（学術）（東京大学）

専門分野

発生生物学・細胞生物学・メカノバイオロジー・
分子イメージング

訃報

名誉教授 ^{きくち} 菊池 ^{くにみ} 九二三 氏
(享年77歳)



名誉教授 菊池九二三先生が令和2年8月31日(月)に逝去されました。ここに生前のご功績を偲び、謹んで哀悼の意を表します。

先生は、昭和17年9月に青森県下北半島に生まれ、昭和42年3月に東北大学医学部医学科を卒業後、医師実地修練ののち、昭和49年3月に同大学院医学研究科博士課程を修了、4月に東北大学抗酸菌病研究所助手に任ぜられました。その後、米国バージニア大学へ

の留学、東北大学抗酸菌病研究所助教を経て、平成元年5月に北海道大学免疫科学研究所(平成12年、遺伝子病制御研究所へと改組)生化学部門の教授に着任、平成18年3月に定年により退職されました。

教育面では、理学研究科化学専攻にて生体機能化学を担当されるとともに、多くの博士・修士論文を指導され、優秀な人材を輩出されました。また、医学部3年生の生化学、教養部にて行う理系1年生の生物学の講義にも力を入れておられました。

研究面では、グリコーゲン代謝制御機構の解析を端緒として、タンパク質脱リン酸化酵素(プロテインホスファターゼ)の分子多様性を初めて明らかにし、この領域における先駆けとなりました。後に、PP2Aと呼ばれることになるホロ酵素及びPP2Cを発見しました。これらの研究をさらに発展させ、多くの新規プロテインホスファタ

ーゼ分子種を見いだすとともに、性状解析・生体機能解明を進めました。それらの成果に立脚し、生体機能、とくに癌や免疫系のシグナル伝達制御、情報調節におけるタンパク質脱リン酸化ネットワーク機構を提唱されました。平成18年には、日本プロテインホスファターゼ研究会功労賞を受賞されています。

研究の他、本学遺伝子病制御研究所にて主要な委員会のメンバーや委員長を歴任するとともに、平成14年からは同研究所副所長、平成16年には同研究所附属疾患モデル動物実験施設長として、管理運営にも尽力されました。

先生の長年にわたるご功績に敬意を表し、また、多大なるご貢献に深く感謝し、ここに、衷心よりご冥福をお祈り申し上げます。

(遺伝子病制御研究所)

名誉教授 ^{その} 曾野 ^{かずあき} 和明 氏
(享年86歳)



名誉教授 曾野和明先生が令和2年9月8日(火)に逝去されました。

先生は、昭和32年関西大学法学部を卒業後、同大学大学院に進学され、昭和38年に法学研究科博士課程を修了されました。関西大学法学部講師に就任後、ワシントン大学ロースクールに留学され、昭和44年に卒業されました(Juris Doctor)。帰国後、上智大学国際部大学院教授を経て、昭和45年から国際連合法務部法務官に就任され、国際舞台でのご活躍の第一歩を歩み出さ

れました。昭和48年10月北海道大学法学部に教授として赴任され、平成9年3月定年退官、同年本学より名誉教授の称号を授与されました。

法学部では比較法1部(英米法)、特殊講義、演習ほかを、大学院法学研究科では国際取引法演習などを担当され、昭和61年12月から本学評議員として全学の管理運営に尽力されました。本学勤務中に国連事務局特別コンサルタント(ニューヨーク)、国連国際商取引法委員会事務局長・同法務局国際取引法部長(ウィーン)、IMF法律総顧問補(ワシントン)と、3度も国際機関へ長期派遣され、国際的取引法生成の最前線で活躍されました。このように先生は大学と国際機関を行き来しながら、学問と実務、国内法と国際社会の法を架橋すべく、文字通りグローバルに活躍する新たな大学教授のあり方を後進に示されました。

本学定年後、帝塚山大学法政策学部の創設に参画され、同学部長などを歴

任し、平成16年に退職されています。

先生は比較法(英米法)担当の教授として本学に在籍されましたが、先生のご研究は古い蛸壺的でドグマティックな法学から脱し、広い視野から既存の学問の境界を融合させ、新たな地平を切り拓く先駆的なものでした。本学最終講義のテーマが「相互浸透の世界における法体系の動揺—国家法の脱落と私法秩序の再構築」であったことは、先生の学問が何を志向していたかをよく表しています。颯爽と地球を飛び回り、グローバルな頭脳をもつ先生でしたが、同時に北大をこよなく愛し、その一員であることに深い誇りを抱かれていたことを思い出します。

先生の長年に渡るご貢献、ご指導に敬意と感謝を表し、謹んでご冥福をお祈りいたします。

(法学研究科・法学部)

9月30日（水）、理事・副学長の方々が任期を終えられ、同日、多くの職員の拍手のもと、離任式が行われました。



編集メモ

●10月1日（木）、本学新執行部が発足しました。本号冒頭に掲載した総長メッセージは、基幹ウェブサイトでも広く学内外に向けて発信されています。今後も様々な情報が発信される予定です。

●10月1日（木）にリニューアルグランドオープンしたインフォメーションセンターエルの森。カフェで

は、本文でもご紹介した北大牛乳ソフトはもちろん、朝～夜まで様々なメニューが用意されています。今後も、皆様からの要望等にあわせて随時変更予定とのことですので、ぜひお立ち寄りください（教職員証を忘れずに）。

◆ <https://www.hokudai.ac.jp/home2020/>



役員の写真撮影の様子



(左) ランチ人気メニュー 特製ビーフシチューオムライス
(右) 北大牛乳ソフトクリームとテイクアウト用コーヒー。
北大牛乳は季節によって味が変わるとか。



裏表紙メモ

北海道大学のキャンパスの風景を様々な角度からご紹介する「キャンパス風景」。

今月は正門近くでばったり遭遇したエゾリス。思わずあちらも驚いているかのような表情です。皆様もキャンパス内で遭遇した際にはそっと見守ってあげてください。

キャンパス風景 7 正門付近のエゾリス（北8条西5丁目）



北大時報 ⑩ No.799 令和2年10月発行

北海道大学総務企画部広報課 〒060-0808 札幌市北区北8条西5丁目

TEL：(011) 706-2162 / FAX：(011) 706-2092 / E-mail：kouhou@jimuhokudai.ac.jp

北大時報はインターネットでもご覧いただけます。 <https://www.hokudai.ac.jp/pr/publications/jihou.html>